

# 伊予路

No. 154

[平成30年3月]



愛媛県公民館連合会

----- 表 紙 写 真 -----

しろまわり ながおかやましき うた  
内子町城廻 長岡山四季の詩公園

写真は内子町城廻地区にある「長岡山・四季の詩公園」です。

ここには昔、青年学校や中学校があり、地域の人々に親しまれていた場所でした。古くからサクラの木が数多く植えられており、町内外の方に「サクラの名所」として知られていましたが、平成14年に自治会制度が発足するにあたり、地元の「城廻自治会」が公園の整備計画を策定し、現在まで毎年整備が続けられています。

例年4月初旬に、この公園を中心にサクラを愛でるイベント「さくらまつり」を開催しております。自治会のみなさんが振る舞う各種バザーも好評です。

今年のお花見には、ぜひ四季の詩公園のサクラも見に来てみませんか？

〈目 次〉

◎ 表紙写真 《内子町城廻 長岡山四季の詩公園》  
◇「公民館同士の姉妹館交流パートⅡ」……………愛媛県公民館連合会 会長 越智 保二… 2

《公民館運営審議会委員からの提言》  
◇「公民館活動に参加して」……………東温市公民館運営審議会 委員 高須賀 恵美子… 4  
◇「公民館活動の重要性について」……………松前町公民館運営審議会 副委員長 矢田 弘… 5

《きてみなはいや おらが公民館》  
◇「地域のみなさんに支えられて活動した公民館」  
……………上島町弓削中央公民館 主事 木川 翔太… 6  
◇「伝統行事を地域の活性化に生かす公民館活動」  
……………宇和島市立吉田公民館 主事 土居 政彦… 8

《あつまる・まなぶ・つなぐ》  
◇「地区館は営業力の塊」……………今治市中央公民館 館長補佐兼事業係長 近藤 俊夫…10  
◇「ここでしか読めない館報づくりを目指して」  
……………内子町内子東自治センター 主事 小河 卓也…11

《優良グループ紹介》  
◇「『さわやかさ』を支える熱い思い」  
……………松山市北条公民館 コンサートコーディネーター集団「ひびき」 玉井 俊幸…13  
◇「悩んでいる人・元気がない人の心を癒すことができればいいな」  
……………千丈地区公民館 ティンカーベル 日野 文恵…15

《館長さん こんにちは》  
◇「四国中央市中曾根公民館 紀井 教幸 館長さんにご質問」  
……………質問者 四国中央市中曾根公民館 主事 高橋 拓也…16  
◇「伊方町町見公民館 清水 栄造 館長さんにご質問」  
……………質問者 町見公民館 主任 畑中 保人…17

《元気な主事さん》  
◇「『残す』『見える』地域づくり」……………久万高原町公民館柳谷地区館 主事 平野 勝規…19  
◇「なんちゃってアスリート」……………大洲市三善公民館 主事 森本 浩司…21

《郡市公連だより》  
◇「地域主導型公民館の活動」……………新居浜市垣生公民館 主事補 伊藤 聡子…22  
◇「地域づくりと公民館 ～西予市遊子川公民館の取組～」  
……………西予市遊子川公民館 主事 久保田 学…23

《第29回全国公民館セミナーレポート》……………松山市小野公民館 主事 田所 佳奈…25  
《平成29年度愛媛県公民館研究大会》……………28  
《県公連だより》……………47  
《愛媛県公友会について》……………48  
《編集後記》……………49

# 公民館同士の姉妹館交流パートⅡ

愛媛県公民館連合会 会長 越智保二



## 一 はじめに

昨年度途中に、県公連会長をお引き受けして二年目の今年度も、各行事が立て込みあれこれと忙しいまま今に至っております。不慣れではありましたが、関係各位の皆様のご協力のもと、私もいろいろ勉強させていただきましたが、無事年度末を迎えることができました。

今年度の県公民館研究大会は、大洲市を会場とし「新しい公民館像を求めて」というテーマのもと、多くの皆様に支えていただき、盛大に行われましたこと、大変うれしく思っております。公民館制度が始まり七十年以上が経過した今、各公民館活動にも、それぞれの地域の実情などにより様々な変遷がありました。しかし、公民館が地域住民の「つどい」「むすぶ」「まなぶ」場であることは変わりないと感じることができました。お忙しい中、計画、準備に携わっていただいた皆様、当日各会場でご尽力いただいた皆様、そして、県下各地からご参加いただいた皆様、本当にありがとうございます。厚くお礼を申し上げます。

## 二 地域のネットワークづくり

私が公民館館長（現 地域交流センター所長）として活動し始めて、

今年で九九年が過ぎようとしています。当館は新居浜市の中心部に位置し、歴史や文化を感じる行事や施設が多くあります。しかし、住宅やマンション等の建築も多く、地域住民の人間関係は希薄になりつつあります。そこで、今年度は長く続いてきた行事に、より多く人にかかわっていただけるよう、そして、地域をより盛り上げていただけるよう、各所に呼びかけました。そして、有志による「交流戦隊KANERKO」が発足し、新しい企画を提案、活動していただけるようになりました。また、地域交流センター行事のボランティアスタッフを募集し、特に中学生の皆さんの参加を、中学校と連携しつつ呼び掛けてきました。

今年で二七回目を迎える「ラブ金子ふるさと夏まつり」や「第五回防災運動会・訓練」、そして毎年行っている三世代交流の諸行事などにも、「交流戦隊KANERKO」の皆さんや中学生のボランティアの協力があり、楽しい交流の場となりました。

しかし、依然として公民館の利用者は高齢者が多く、行事の内容も変革がなされなくなってきました。若い人や、中高生の協力を得るためには、若い人に賛同を得られるような内容の見直しや、新しい取り組みを考える時期にきています。地域の関係諸機関や学校などとの連携がさらに重要であると考えています。

## 三 姉妹館交流パートⅡ

長く続いている文化的交流として、埼玉県の入間市立金子公民館と姉妹館交流を始め、相互に訪問を重ねてきました。平成二十九年十月で、その交流は三十周年となり、十月十六日に入間市立金子公民館から教育長、公民館館長等二一名が新居浜市に來られ、姉妹館交流締結三十周年記念式典が地域交流センターで行われました。新居浜市からは新居浜市長、教育長、教育委員会の方々、地域交流センター運営審議委員や各種団体長等が参加、盛大に執り行われました。夕方から懇親会で親睦を深め、夜には新居浜太鼓祭りに参加し、入間市の方々には威勢の良い太鼓台に感動し、大いに盛り上がりました。翌十七日には、地域交流センターにて交流会が行われ、両館の行事や活動状況を発表し合い、今後についても話し合い、三年後には我々が入間市訪問することになりました。

また、今年一月十九二十日と東京ドームにおいて「ふるさと祭り東

京「日本のまつり・故郷の味」が行われました。これは日本全国各地二〇の祭りが集まりステージで演じるものです。また、全国各地より各地自慢の「食」が集結し堪能できるという、とても大がかりなイベントです。そのイベントに新居浜市の太鼓台が参加することになりましたが、太鼓台を担ぐには一五〇名から二〇〇名の人の手が必要です。新居浜からすべての担ぎ夫を連れていくには大変なことから、太鼓台を関東の人々に広めたいという思いから、関東近郊の新居浜市出身者等に担ぎ夫としての参加を呼び掛けることになりました。入間の方々にも参加していただけるよう、十月の交流会の際に、新居浜市のイベント関係者と話し合い、できる限りの協力を取り付けました。

入間市側は「新居浜市地域交流センター交流事業」と銘打ってメンバーを募集し、イベントには、六〇名近くの人々が担ぎ夫として参加してきていただき、入間市からの往復のバスも出していただけました。これも、公民館姉妹館交流での成果であり、交流なくしてはなりえなかったこと



交流戦隊KANEKOの会議風景



埼玉県入間市立金子公民館と新居浜市地域交流センター姉妹館交流締結30周年記念式典



東京ドームでの太鼓台差し上げ（埼玉県入間市担ぎ夫応援）

も多くの発表を聞き、実感しているところでもあります。今後、公民館がそれらの地域課題を見つめ直し、関係諸機関ともしっかり連携し、多方面に発信していくことが大切です、多様な人材を掘り起こすネットワークづくりも、ますます重要になってきます。

今後とも公民館が地域住民の最も身近で信頼される場所であり続けられるよう、日々活動し努力していきます。

です。

私も入間市の皆さんへのお礼かたがた二日間東京ドームへ行き、多くの皆さんに支えられた素晴らしいイベントを見てきました。参加してくださった入間の皆さんには、「とても疲れるが、本当に素晴らしい。今年の新居浜祭りには、ツアーを組んで是非祭りに参加したい。すでに参加者を募集中である。」と言っていたきました。東京で結ばれた入間と新居浜の両公民館の「遠くても厚い友情」の成果が、大きく実を結びつつあることを感じ、本当にうれしい気持ちで一杯です。

#### 四 さいごに

変わりゆく時代の中で公民館は、社会教育の拠点として大きな役割を果たしており、地域再生の中心となっていることは、今年度の県公民館研究大会でも多くの発表を聞き、実感しているところでもあります。

しかし、これからの公民館活動には各地域が抱えている悩みや課題も多く存在しています。今後、公民館がそれらの地域課題を見つめ直し、関係諸機関ともしっかり連携し、多方面に発信していくことが大切です、多様な人材を掘り起こすネットワークづくりも、ますます重要になってきます。

# 公民館運営審議会委員からの提言

## 公民館活動に参加して

東温市公民館運営審議会 委員 高須賀 恵美子



私は、東温市婦人会の代表として五年前から、公民館運営審議会委員を務めています。

委員となって初めて知ったこと明確になったことがあります。例えば、東温市の「公民館」は、中央公民館と川内公民館の二館であること、私が何気なく公民館と呼んでいた地域の施設は「分館」と呼び、東温市には三十七の分館があることなどです。そして、私の住む地域で以前、「会堂」と呼んでいた施設を、現在は「集会所」と呼び、そこは「分館」を兼ねていることなどです。

私は、婦人会活動を始めとして度々公民館や分館を利用し、公民館や分館の行事に参加・参画してきました。

さて、私たち東温市婦人会では、「きょういく」と「きょうよう」を合言葉の一つにしています。「きょういく」とは、「今日、行くところがある」こと、「きょうよう」とは「今日、用がある」ことです。家に閉じこもっていないで、お出かけすることが、高齢者（高齢者ばかりとは限りませんが、東温市婦人会も平均年齢から見ると高齢者の仲間です。）が、心身ともに健康を保つていく上で不可欠です。そして、それが引いては家庭の幸せ、地域の元気、東温市の活力につながっていくと思っています。（実はこの言葉は、東温市の前教育長さんのお話にあったのですが、なるほどと思い、婦人会では合言葉のように使っています。）

そこで、改めて公民館活動について考えてみたいと思います。公民館の役割は、「公民館は、地域における学習・交流の拠点であり、公民館活動は活力と潤いのある地域社会実現のため、大きな役割を果たしている。」です。課題は、「社会状況の変化の中で、今改めて公民館が生涯学習推進の中核的な施設として、地域づくり、人づくりに、期待とその果たすべき役割が大きく問われている。」です。

現在、東温市の公民館活動として、①学習の輪を広げる講座 ②自主的な学習活動を支援 ③分館における活動 ④学習情報の提供

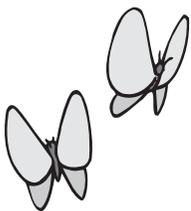
が行われています。

特に①ですが、「こんなにいい講演会なのに、参加者が少ないなあ。」と思うことがあります。また「知っていたら参加したかったなあ。」と思ったときもありました。そして、身近な分館の行事でさえ知らないことがありました。（これは私にとつてとても残念でした。）

それは、広報の難しさ・人集めの難しさです。十分広報はしているはずですが、検討してみてもどうでしょうか。まず大切なのは、住民のニーズに応じた企画を練ること、次に広くお知らせをすること。その後は、口コミによるお知らせ・お誘いも大いに役立つと考えます。

最近こんな体験をしました。婦人会である行事の参加者を募っていたのですが、多くの会員が友達を誘ってくれて参加者が増え、無事に終えることができました。このことから友達・知人を誘うことの有用さ、口コミの有用さを感じています。

公民館活動を活発にすることからも、「小さくてもキラリと光る 住んでみたい 住んでよかった 東温市」の将来像を実現していきたいと思っています。



# 公民館活動の重要性について

松前町公民館運営審議会 副委員長 矢田 弘

「公民館」は今から約七十年前に文部省通牒により全国に広まって来たと聞いています。公民館の役割は「集う」「学ぶ」「つながる」を三大テーマに掲げ地域の活性化を進めることが役割です。

最近の様に高齢化が進み七十五歳以上の人々が七十五歳以上の人を介護する老々介護のケースが三十パーセントに近く、少子化と核家族化で家族とのつながりが薄くなっている現状で、しかも地球温暖化により自然環境の急激な変化で引き起こされる災害や、地震の様な自然災害が多い我が国では、いかに深い絆で助け合いが出来るかが大切なことは明確です。

そのつながりを指導し強い地域にしていかがが問われています。

問題はこの辺を住民がどの程度理解し協力してくれるように進めるかが大切です。

インターネットやSNSが発達している現在、若い人は個人的に楽しんで満足し、家族との会話や先輩の意見などに耳を貸さないことが多くなったように思われます。食事のときにもスマホでゲームを楽しみながらの風景をよく見ます。

これではいざと言う時の繋がりは難しいと考えます。昔に比べ確かに情報量は多いと思いますが専門用語や省略した表現の言葉で、

これが高齢者と若者の繋がりの大きな壁になっていると思います。

私も今、地域の活性化について色々と活動を進めています。

二年前に県と市町の行政・それに住民の三者が協働で地域の町づくりや活性化を進める住民集会を開いて、その結論として松前町ではエミフル+αのアルファ部分の新しい観光発コースを作ることになりました。

そこで現在「まさきーいとこ見つけ隊」を発足して松前町新観光コースを作成中です。今年「えひめ国体」が開催され県外からたくさんのお客様が訪れます。

町外からのお客様を要望に応じて、町民がいかに「おもてなし」をするかを検討しています。

同時に観光ボランティアガイドも立ち上がり自己研修を進めて対応に備えているところです。

この段階で、やはり住民をいかに巻き込むかの難しさがありますが、会員全員で努力しています。

複雑な繋がりは敬遠し自分さえ良ければと言う考えが優先しますが、そこを少し我慢して助け合うと言う心が欲しいものです。

この世に生まれてきた以上個人的に楽しむことも大切ですが、お互いに助け合う姿勢が

大切と考えます。  
このことは、公民館活動にも共通すると思います。その辺の役割を切に期待したい所です。



# きてみなはいや おらが公民館



ようこそ上島町へ

## 地域のみなさんに支えられて活動した公民館

上島町弓削中央公民館 主事 木川翔太

### 一 上島町の概要

上島町は愛媛県の東北部、広島県境に位置し瀬戸内海のほぼ中心に浮かび、平成十六年に弓削町、生名村、岩城村、魚島村の四町村が合併してできた町です。

様々な歴史的背景を持った四町村が合併して誕生した上島町ですが、江戸期は、松山藩、今治藩に属し、民間航路の要衝でもあった当

地域では、港を中心として商業や廻船業で大いに賑わっていたと伝えられています。

上島町には今三つの島を繋ぐ「弓削大橋」「生名橋」があり、弓削島、佐島、生名島を繋ぐ「ゆめしま海道」が開通しています。駅伝大会やマラソン大会では橋を二つ渡る珍しいコースとして注目されています。平成三十三年度には町内三つ目となる「岩城橋」の開通も予定されており、利便性が高まり、地域間の交流がさらに進むと期待されています。

### 二 地域団体との関わり

生名地区では様々な地域団体とつながりながら、いろいろな行事を開催しています。

九月には、生名小学校と生名地区合同で運動会を開催し、子どもからお年寄りまで三世代が集い、交流を深めています。運動会の運営は、学校と連携し、進めています。また、婦人会や青年会、老人クラブなどの協力もあり、毎年賑やかに開催することができています。

また、毎年十一月に地区ごとの文化祭を行っています。各地区に文化協会の支部があり、支部を中心に文化祭を開催しています。それぞれが地域の伝統を生かした展示や芸能発表を行っており、地域に根付いたイベントになっています。



ゆめしま海道駅伝大会



ゆめしま海道いきなマラソン



生名地区運動会

生名文化祭では、文化協会の各部による作品展や、大正琴、舞踊などの芸能発表、婦人会によるバザー、また、子供たちによるピアノの伴奏や子ども教室による子供たちの演奏も行っています。

### 三 生名公民館の思い出

上島町生名地区にある、生名公民館は、昭和四十七年に建設され、それ以来生名地区住民の拠点としてその役割を果たしてきました。先ほどの運動会や文化祭の行事も、公民館が中心になって運営してきましたが、老朽化に伴い、昨年閉館となりました。生名公民館で行ってきた様々な活動の中から、二つの取組をご紹介します。

まず、一つ目は「生名っ子通学合宿」についてです。子供たちを身近な施設に、六泊七日宿泊させながら通学させるとい活動です。異年齢の子供たちが、PTAや地域の方々の協力を経て、集団で合宿して学校に通います。合宿中の炊事、洗濯、清掃、入浴などの日常生活から、人に対する思いやりや協調性及び自主性を育て、また合宿中に実施される各種の学習を通じて地域の文化に触れ、郷土愛や地域社会の一員としての自覚を育てることを目的として、開催しました。この通学合宿では、学校と公民館、そして地域が一つになって何かに取り組むことで、一体感も生まれました。

無理を言って当時の教員住宅の共同風呂を利用させていたり、当時生名地区では給食が無かったので、保護者に、お弁当を公民館や学校へ持参してもらったりして、みんなの協力を得ながら実施できたそうです。また、宿泊には毎晩大人の付き添いが必要で、男性の先生方には交代で毎晩宿泊していただき、後は公民館職員とPTAのお父さんにお願していました。また、肝試しも行い、先生とPTAと公民館職員がオバケ役をして、子供たちには好評だったそうです。

もう一つは「琴子ども教室」です。これは伝統文化の継承と、子どもの体験のために生名公民館で始まった活動です。現在は中央公民館の事業として引継ぎ、小学校三年生から六年生まで七名が、文化祭に向けて練習を積み重ねています。

三・四年生は簡単な演奏の練習から始まりみんなで音を合わせられるように頑張っています。五・六年生は難しい曲で講師の先生と第一琴、第二琴とパートを分けて演奏し文化祭でも好評で、これからも公民館活動として大切に続けていきたいと思っています。

### 四 これからの公民館活動

現在、生名島には公民館が無く地域の方が寄り添う

場所が乏しく、社会教育活動も町全体として実施している為、なかなか細やかな活動ができない状態が続いています。

しかし、運動会や文化祭、琴子ども教室のような活動を続けていくことで地域とのかかわりを深めながら、今後も地域に寄り添った

## 伝統行事を地域の活性化に生かす公民館活動

宇和島市立吉田公民館 主事 土居政彦

私たちの暮らしは、様々な年中行事に彩られています。年中行事には、お正月などのように貴族や武家の儀式からできているものや節分やお彼岸のように暮らしに深く関わる雑節から生まれたものもあります。ともに伝統文化や季節感を重んずることゆえにいろいろな意味が込められています。

ここでは、年中行事・古謡・その他とくに公民館と関わりのある特色あるものを紹介します。

### 亥の子行事

秋は、稲作の生産過程の中でも、収穫という重要な時期です。農家にとって、稲刈りを行い、収穫が出来ることは、大きな喜びであります。この時期に一つの節を設けて収穫を感謝しました。

亥の子行事は、そういった収穫祭の一つと考えられています。神様・作神様で、この日に田から家に帰られると言われていました。

公民館活動を行っていきたいと思います。さらに、岩城島と繋がることによって町民同士の輪が広がるような活動を通して、社会教育の大切さを町民一人ひとりに伝えられるように頑張っていきたいと思えます。

そして、神様をお迎えするために餅をつくのが習慣になっていました。各地区の亥の子のお宿の祭壇には、米、餅、季節の野菜、果物、酒などが飾られています。

吉田小学校区の亥の子は、例年十一月の第二土曜日に行われています。小学生が中心(少子化の影響で亥の子のつけないところは中学生もしくは保護者・園児が一緒につくところもあります)で、亥の子唄(無病息災、家内安全、五穀豊穰、子孫繁栄など)を唄いながら、家々を亥の子について回ります。亥の子をついた家には、紅白餅を配ります。

中国では、十月は亥の月であり、亥の月亥の日に餅を食すと病気をしないという考えが古くからあり、それが日本に伝わりました。昔は、この日からこたつを使い始めると火災から逃れるとされたそうです。

昭和三十年代までは、亥の子の数日前から大将宿で亥の子唄の練習をしていました。亥の子大将や幹部連中等、それぞれ宿泊まりし

ていましたし、大将はその当時、中学一年生でしたので統制もとれていました。また、亥の子は昔ながらの約束事が伝承されており、祝儀や物品の配分に区別のあるところや平等に分けるところがあります。現在も集会所(以前は大將の家)に泊まる場所もあります。亥の子唄の歌詞は、以下のとおり縁起を担ぐ内容が多いです。(吉田に伝わる代表的な亥の子唄)

めでたいな めでたいな

この家はめでたいな 家内そろって皆

元気

おまけにお金のたんどある。

エートヤツサイトーヤ

○お宿の神様ごめんさい。

ちんちんからりやまんからり鳴るは滝の水の音

水の音

エートヤツサイトーヤ

○男の子男の子 男の子よ忘れんな

君には忠義親に孝 社会奉仕は人の道

情は世間の笑いもの 大きくなったその

時は

人の鏡になるように 亥の子について祝

いましょう

万歳万歳万々歳

エートヤツサイトーヤ

### 第四十三回吉田地区亥の子大会

十一月十一日(土) (例年十一月第二土曜

日午後六時より開催) 恒例の吉田地区亥の子大会を開催しました。宇和島市吉田支所横の自由の広場に子供たちの元気な亥の子唄が響



き渡りました。この行事は、吉田地区愛護班連絡協議会、吉田公民館の共催で実施し、今年で、四十三回目を迎えました。五穀豊穣等に感謝し家々を亥の子石をついて回る亥の子は県下で行われていますが、吉田のように亥の子連が、一堂に会し、鉢巻きやたすきで着飾り、亥の子石のつきかたや唄の元気さ、チームワーク、礼儀等を競う大会は吉田地区だといわれています。

### 吉田秋祭り宵宮宝多行事

吉田秋祭りの宵宮に行われていた宝多（ホタ）行事は、ホタに出るものは、いずれも白

装束にわらじがけ、腰には太い注連縄をはりまわしていました。宵宮の晩遅く、八幡様に参拝し、御神符をうけてこれを角の真うしろに貼り付けたのち、夜の明けるまで町中を練り歩くのでありますが、往事はその数三、四百にもものぼったといわれ、百鬼夜行の壮観はたとえようもないものでありました。天下にその奇習をうたわれたホタ行列も、大正の中頃より次第にその形が崩れ、異様なものが出現するやら、いたずらに扮装を競うなど、ホタ本来の姿が失われました。やがて、いつ頃から衰退し、祭り当日に神輿の先導役として登場する八幡宝多と魚棚地区の子供たちが「おねり巡行」の際に片手に持つ小さな宝



多のみとなりました。

そこで、国の重要無形民俗文化財指定に向け「おねり」が注目を浴びている中、秋祭りを一層格調高いものとし、子供たちにとっても楽しい思い出深い秋祭りにするため、平成二十七年に吉田地区愛護班連絡協議会はじめて多くの関係者の賛同を得、宵宮宝多行事の伝統を復活しました。例年、十一月二日、三日に開催されます。特に本祭り三日は、「おねり」と「宵宮宝多」がご覧になれます。

### おわりに

「伊予路」の原稿依頼を引き受けたものの何を書けばよいか悩みました。各種スポーツ大会、盆踊り、敬老事業などは、県下どこの公民館でも取り組んでいる事業であるし、結局のところ亥の子行事と宵宮宝多行事を投稿することとしました。

これらの行事は、それまでの長い歴史のなかで採まれ、地域に根ざしたものです。地域社会の生活様式ともに伝承された行事を世代間の交流を通じて後世に継承出来ればと思います。

さて、近年少子高齢化の波が寄せ特に若年層の減少により農林水産業や商工業者の高齢化・後継者不足などの問題を抱え、公民館事業を支えた婦人会・老人クラブ等の会員の減少や個々の価値観の多様化等により多大な影響を及ぼし、事業によってはそのものが、存続が危ぶまれているものもあります。こうした状況だからこそ創意工夫により、克服したものです。

# あつまる まなぶ つなぐ

## 地区館は営業力の塊

今治市中央公民館 館長補佐兼事業係長 近藤 俊 夫



現在、私は五十一歳です。今治市役所に就職後、建設、税、水道、福祉、とさまざまな部署に配属の後、初めて公民館に配属となったのは、平成十九年度、四十一歳の時でした。今治市中央公民館の管理係にて庶務的な仕事を中心に四年間従事しました。また、事務局長ではありませんでしたが、県公連に関する事務も行っていました。

その後、税関係の部署に配属の後、再び公民館に配属となりました。今治市国分公民館という地区館の館長として配属です。平成二十六年年度のこと、四十八歳でした。

職員は自分を含めて三人でした。配属直後に、少人数で空気が悪ければ大きな支障であり職員同士で仲良く仕事をするのが大切であると直感しました。日常のコミュニケーションを大切に、少ない人数ではあるが、適時、職員で親睦会なども行いました。

地域住民に対しては、マナーとコミュニケーションを大切に、信頼関係を築くことを目標に過ごしました。お願いされることがあれば出来る限り尽力する、お願い、お礼をするときは電話で済まさず訪問する、日常的な雑談などのコミュニケーション、接遇の気持を大切に等々を心掛けました。サービス

業的な色彩、喜んでいただき、公民館に来て楽しかったという印象を持っていただくことなども重要と考えていました。

地区館では、行事をするには地域住民に頭を下げて頼むことが多くありました。今までの配属の部署であれば、基本的に業務上で行う会話は直接的な目的があり、その目的を達成できるように説明をしていくということが中心でした。ところが地区館では、用事があるときに話をするというだけでは運営は難しいのです。地域住民にお願いをして、承諾していただくには、普段からコミュニケーションを図り信頼関係を築いていることが必要とされるのです。

また、本庁の各部署から「今治市民のまつり、おんまぐなどの今治市全体の行事をするとき、及び地域のための交通警備員の団体の設立を各地域に依頼しています。そちらの地域でも地域住民に依頼して作ってください。」市の計画を策定するに当たり数日にわたり意見交換会を開くので、地域から委員を選出してください。」等々のお問い合わせや協力依頼がたくさんありました。それらは、引き受けた人に負担をかけるものが多く、お願いすることが心苦しいものがほとんどでした。地域の方々と信頼関係を築いていることは、そのような地区館の業務の性質上最も大切なことだといえるでしょう。

地域で活躍している方々は、人の世話をすることも嫌がらないボランティア精神にあふれる尊敬に値する人ばかりでした。

ただし、公民館での行事運営、登録団体での活動、仲間との交流、講座への参加、つまりは公民館が推奨する「あつまる、まなぶ、つなぐ」ということに面白さや、満足感、楽しさがあるからこそ公民館に顔を出す部分は大きいと思います。負担のかかる仕事を頼まれるばかりなら、公民館には向かなくなるものとも考えられます。公民館は楽しい場所である必要があるのです。地域が何かの時に動けるように、公民館は「あつまる、まなぶ、つなぐ」ということを通して、常に地域を暖めておく必要があるのです。

行政は予算的にも地域住民の活力を活かさなくては、運営できない状態になっています。また、益々、地域住民の行政への参画が必要となつていきます。公民館からそのことをお願いする場面も多いのですが、普段からの楽しい公民館活動の流れの中で、公民館や公民館を通しての本庁からお願いだから聞き入れてくれるところも大きいと思います。

そういう意味では、地区館はまさに、行政の最先端で活躍する「営業力の塊」のような部署と言えるのではないのでしょうか。本庁の各担当者が初対面で唐突に、このような仕事のために団体の設立をお願いします、と地域住民を訪問しても難しいかも知れません。

地区館長の後、中央公民館の事業係（行事中心の仕事）に異動しました。平成二十七年、四十九歳のことです。地区館と連絡をとりながら今治市全体の行事に関する仕事をし

ています。この担当になり三年目です。

地区館に関する仕事も多く、地区館長の経験は財産となっております。地区館の苦勞として、前段で説明した地域との信頼関係の構築以外にも、職員が少人数であること、事務の幅が広く、業務上に覚える必要も必然的に広がること。広く浅くとは言うものの、実際はそれぞれの業務がある程度深く知っていないと許されない等々があげられます。

各公民館や関係各課の連携も必要となりますが、やはりここでも、普段からのコミュニケーションがあれば、事は円滑に進むものと思えます。

平成二十九年度から、県公連の今治の事務局長を務め実務も担当しています。大会の発表者のお願いや、この伊予路の執筆者をお願いする作業も館長と私が協力して行っており

## ここだけしか読めない館報づくりを目指して

内子町内子東自治センター 主事 小河 卓也

見えないように見られている

内子東自治センターで公民館報を担当して早四年。いつか慣れるだろうと思っていた紙面の編集も、未だに月末はウンウンとうなり声をあげながら悪戦苦闘しています。

内子町（喜多郡）の公民館施設五館は、その全てが月刊で公民館報を発行し、それぞれの地域に全戸配布しております。そのため、県公民館研究大会で他市町では館報を出していないところも多いと知り、驚いたのを覚えています。市町ごとに公民館の役割は、かな

ます。この場をお借りしまして、大会で発表をしていただいた方々やご協力くださった方々のご苦勞や、ご尽力に、厚く御礼申し上げます。

公民館が設立されて長い時間が経過しています。「あつまる、まなぶ、つなぐ」という三本柱は、一貫して変わることなく機能しています。防災、子育て、生きがい作り、居場所作り、その他多くの課題を、この三本柱は解決できると思います。公民館が安定して、地域を応援し、後押しすることで地域は活力を持てると思います。

行政と地域を公民館という車軸で繋ぎ双輪で走ること、この古くて新しい「あつまる、まなぶ、つなぐ」という三本柱を機能させることは、現在も未来も多くの地域が抱える課題を解決する力があるものだと思っています。

り大きく違うのかもしれない。

さて、苦勞の未発行する公民館報ですが、地域のみなさんが見ているかというところ、実際のところそうでもなさそうです。地域で実施しているサロンなどにお邪魔する機会も多いのですが、ふと館報の話題になつても、「そうなん？ 私見てないけん知らんわ」と言われることも多々あります。見ているだろうと公民館職員が思つていても、実はそんなに地域の方々は見ていません。

では、館報を作ったところで見られないか



# 優良グループ紹介

## 「さわやかさ」を支える熱い思い

松山市北条公民館  
コンサートコーディネート集団「ひびき」 玉井俊幸

はじめに、松山市北条地区は、松山市の中心地から北およそ一七・五kmのところであり、高縄半島の西側に位置し、西は瀬戸内海に面しており、ゆるやかな山地と海岸との間に平地が広がっている。霊峰高縄山に象徴され颯爽の海風にその名を負った麗わしの風土であり、歴史ロマンを秘めた地域である。中世に中・東予を支配した河野氏の覇府が置かれ、近世では松山藩の農業改革のモデル地域が設置されていた。これまで、大きな災害もなく穏やかな地域である。

### 一 発足は人との出会いから

平成十五年、北条コミュニティセンターが建築され、広いロビーを有効に活用するアイデアはないものかと思案を巡らせていたその年の四月、ピアノやコーラスの指導をしているTさんと出会い、ミニコンサート会場としてロビーを有効活用しようということで意気投合した。その発想を基に、公民館の活動をサポートしてくれるスタッフの中で希望者を募り、その中の四、五人で「ロビーコンサート活用企画会」を立ち上げた。事はここから始まったのである。決め手は人との出会い。そのTさんは、現在も重要なスタッフの一員として活動を支えてくれている。

### 二 難問山積の立ち上げ企画会

立ち上げたものの、いざ企画会で話し合ってみると、難問山積。コンサートの名前は？

開催日時は？ 出演者は？ 会場づくりは？ ……と次々に課題が出てきた。「ロビーコンサートを開く」と言っても並大抵ではないことをお互いに実感し、新しく事を立ち上げるためには驚異的なエネルギーが必要であることを、今更ながら痛感した日々であった。

まずは、ロビーにはない「ピアノをどうするか」から始まった。大変な作業にはなるが、必要な時には二階から降ろそうということになった。

次の課題は、「コンサートのネーミング」。

さまざまな考えが出されたが、リスナーの皆さんがさわやかな気持ちで帰っていただけのようにとの思いで、「さわやか水色コンサート」に決定した。更なる課題は「開催日時」。様々な行事が乱立する中で、開催日時の決定は疎かにはできない。そこで、北条地域の主な年間の行事の洗い出しから始め、できるだけ隙間を狙い、基本的に月の第四土曜日、十九時から一時間（二部構成・二団体）の開催と決定した。そして、最重要課題は「出演者をどうするか」である。差し当たり、北条地域のコーラスグループや、器楽集団、楽器の演奏者などに依頼することとした。PRも大事な仕事であり、公の機関にポスターも配った。昨今は、出演を希望する団体や個人も出てくるようになり、立ち上げ当初の願い「音楽を楽しむ街」に向かいつつあることを実感

している。

### 三 記念すべき第一回さわやか水色コンサート

平成十五年六月二十八日ようやく開催に漕ぎつけた。「第一回さわやか水色コンサート」が始まったのである。前半は長谷川廣山と荒本秀子の尺八と琴（春の海とさくら）の演奏、後半はカームノーツ（夜空のムコウ、童謡メドレー）のコーラス。ピアノは運搬する手筈が整わず、キーボードで済ませた。心配していた入場者もほぼ満員となった。スタッフの喜びようは勿論、筆者もうれしくて、その晩はほとんど眠れなかったことを今も覚えている。何はともあれコンサートは動き出した。もう止まることはできない。

### 四 スタッフ集団の名は「ひびき集団」

コンサートを重ねていくうちに、支えるスタッフの思いや方向性を明確にすべく、スタッフ集団のネーミングを考えようということになった。名前の候補はいろいろあったが、音に込めたスタッフの思いが地域へ響いていくことを願って、「ひびき」と名付けた。

その思いとは、音楽を市民に届ける。サークルや個人の発表の場とする。音楽を通してまちづくりの一役を担う。音楽を通して生活を豊かにする。そして、ひびき集団が発表の中継ぎ役、つまりコンサートをコーディネートすることを確認した。

### 五 会の運営の確立

活動を重ねる毎に、スタッフ一人ひとりの持ち味を生かした役割が固まってきた。活け花、放送機器、ポスター、写真等の係分担、準備の方法、舞台設営の工夫、当日までの準

備等、それぞれが自然体で動くようになってきた。出演者については、有難いことに愛媛の音楽界事情に詳しいスタッフが多く、出演者情報が得やすいこともコンサートをスムーズに進める上で大きな役割を果たしている。昨今は発表を希望する団体も現れるようになり、年間の見通しも立て易くなっている。さらに、北条公民館の重要推進事業の中に組み入れることで、運営が大変円滑に進められるようになった。コンサートが名実共に前進したのである。

### 六 ユニークなプログラム原稿

現在では、北条地域は勿論、県下の音楽家や団体が出演してくれるようになってきている。例えば、八回・我が青春のハーモニカ、三十三回・難波つ子音楽隊、三十八回・雅楽（音取、越天楽）、五十回・柏原大蔵バイオリンコンサート、五十二回・琉球国際太鼓、五十四回・相撲甚句、五十六回・アカペラグループ「どんふおげ」、五十九回・津軽三味線、六十三回・初春箏曲の調べ、六十七回・フラメンコとハワイアン、七十回・二胡の演奏、八十八回・サクソス演奏、九十六回・グルーポ・サイーダ（南米アンデスの音楽）、九十七回・オカリナ演奏（佐山晴彦）、百八回・北斗二十一（北高OBブラスバンド）、百五十四回・坊ちゃん劇場オリジナルミュージカル。

誠に多種多彩、来月が待ち遠しいコンサートになっていくと自負している。

### 七 「さわやかさ」を支える熱い思いはいつまでも

この「さわやか水色コンサート」は、平成三十年一月で百六十二回を迎えた。十六年の

積み重ねの中で、地域で市民権も得てきたし、スタッフも次々と後継者が育ち伝統ができてきた。百六十二回コンサートでは、人間国宝の指導を受けている演奏家による地歌三味線と大街道商店街で路上ライブ募金活動を続けている「ゆめみるひとプロジェクト」（東日本復興応援チーム）の演奏を聴くことができ、大変格調の高いコンサートとなった。両者とも確たる信念を持って活動しており、スタッフ共々、大いなる刺激を受けた。

「音楽を楽しむ街にしたい」とのわれわれの熱い思いが続く限り、この「さわやかさ」は、いつまでも続くと信じている。今後「新たな人」「新たな音」との出会いを求め、市民と共にさらに楽しい「さわやかなコンサート」を開催したいと考えている。



第161回クリスマスコンサートの様子

# 悩んでいる人・元気がない人の心を癒すことができればいいな

千丈地区公民館 ティンカーベル 日野文恵

八幡浜市の千丈地区は、市の東部に位置し、自然環境に恵まれた農山間地域に大小の住宅団地が開発され、古きよき伝統に新しい力が融合して、新たな底力を持った地域です。

そこで活動をしている、ティンカーベル足のきっかけは、平成十四年当時、全国的に多くの児童虐待のニュースがあり、私たちは心をいため、子育てが地域の大きなテーマと考えていました。「お母さんが子どもと集まっ

てで頑張っている家族を地域ぐるみで支えたい」「虐待を防ぎたい」という想いを持った、千丈地区の民生児童委員、食生活改善推進協議会、地区社協で話し合いを行いました。そして、八幡浜市では第一号となる子育てサロン「ミッキーハウス」を立ち上げました。子育てサロンでは、食育、ハンドベル演奏や読み聞かせなどに取り組んでいます。子育てサロンで取り組む内容の充実のため、立ち上げたグループが、ティンカーベルとして活動し

ています。  
名前の由来は、ピーターパンに出てくる妖精の名前です。信じる心があればどんなこともかかいます。ティンカーベルは壊れたお鍋やフライパンを直す、金物修理の妖精です。私たちの活動を通して、悩んでいる人や元気がない人の心を癒したいという想いがこめられているのです。

今年から二〇代の若者がメンバーに加わり、上は八十代まで元気な七人の女性で構成されています。元小中学校の先生、歯科衛生士などなど、いろんな個性の持ち主が集まっています。親子ほど年が離れていたり、価値観が違ったりしますが、メンバー間で学ぶことがとても多く、尊敬しあっています。長く



ミッキークリスマス会



ミッキー豆まき



子育てフェスタ

活動が続く秘訣は、「笑顔の輪を広げ、自分たちも楽しもう」です。ゲームもいろいろと工夫し実際に自分たちが楽しんでいきます。ハンドベル以外にも手品や南京玉すだれなど特技が増えました。  
ティンカーベルの活動は、子育てサロンミッキーハウスの運営、保育所・学

校訪問、児童クラブ訪問、特別支援学校・学級訪問、各地区主催のクリスマス会行事の参加や高齢者施設訪問などです。ミッキーハウスは年六回公民館で、たくさんのお母さんと子どもたちが楽しい時間を過ごしています。クリスマス会や豆まきにはサンタさんや赤鬼青鬼も乱入して子どもたちが泣いたり笑ったり。私たちは食育にも力を入れていて、食生活改善推進委員の皆さんの協力を得て作るお弁当やおやつは、季節感たっぷりの素朴な味で、また、みんなで食べるのがいいのか(味付けがいいのか)「子どもが完食した!」と大変よろこばれています。

平成二四年に「子育て家庭を応援」「創意工夫ある子育てを実践」していることが評価され、「平成二四年度 愛顔の子育て奨励賞」に輝き、愛媛県庁にて中村知事より表彰されました。その喜びとともに、成長した子どもの元気な姿に街で出会い、声をかけられるとやりがいを感じます。

表彰後、千丈地区のみならず、八幡浜市内のお母さんたちを応援しようと「子育てフェスタ」を道の駅で毎年行っています。ティンカーベルが主催、企画して、フルートやオカリナなど生の演奏を聴いてもらったり、市内の読み聞かせグループや遊びのボランティアグループと一緒に毎回工夫しています。お母さんの心のケア、子どもの発達の援助に少しでも貢献できるように、これからも続けていきたいです。

# 館長さんこんにちは

## 四国中央市中曽根公民館 紀井 教幸館長さんにご質問

四国中央市中曽根公民館

主事 高橋 拓也



四国中央市中曽根公民館  
紀井 教幸 館長

質問一 中曽根地区はどんなところですか。

中曽根地区は、愛媛県で一番東に位置する四国中央市の中心部近くにある、人口約五千五百人の町です。市全体の人口は減少の一途を辿っていますが、ここ中曽根地区は新たな住宅地の開発が多く、場所で行われるなど、人口が増加傾向にある貴重な地区です。それゆえ、小学校の児童数も、ほぼ横ばいで推移しています。官公庁や駅へのアクセスが容易であること、バイパスが通っておりその沿線にスーパーやコンビニエンスストアが数多く立地していることなどから、生活しやすく、

新しく家を建てられる人が多いと考えられます。地区内には、十二の自治会・町内会があり、これらの組織がしっかりしていることも中曽根地区の特徴です。

質問二 中曽根公民館の沿革と活動内容を教えてください。

中曽根公民館は昭和三十一年に設置され、住民の生涯学習の場、地域団体等の研修の場として多くの方に利用されています。昨年八月には、地域住民の長年の希望であった新しい公民館施設が完成し、約二百名収容可能な大ホールの新設やバリアフリー化により、これまで以上に多種多様な活動に利用されるよ



外観 東北面

うになりました。公民館施設では珍しい木造平屋建てで、木のぬくもりが感じられるのも、新しい公民館の魅力のひとつです。

公民館主催の大きな行事としては、「町民運動会」「盆踊り大会」「文化祭」があります。いずれも四十年以上続いている伝統行事で、子供からお年寄りまで多くの方が集まり交流を深める貴重な場であり、中曽根町に欠かせない盛大なものとなっています。毎年、行事本番の約二ヶ月前から、自治会長や中曽根地区の各種団体役員と公民館で実行委員会を結成し、準備や当日の運営に取り組んでいます。その他にも、中曽根地区に住む女性を対象にした「婦人学級」を年間八回行い学習の場や交流の場を提供したり、パン作りを学ぶ「おいしいパン教室」を年間六回行うなど、日常



盆踊り

生活に役立つ講座運営にも取り組んでいます。自主的にグループを作って趣味活動に取り組んでいる団体も、詩吟や民舞、茶道、体操教室など約三十団体あり、生涯学習の場としての役割を果たすとともに、社会体育団体や社会福祉団体等の活動の拠点としての役割も担っています。

**質問三 今後取り組んで生きたい活動についてお聞かせください。**

地域コミュニティの再生及び活性化に向けて取り組んでいきたいと思えます。全国的に住民相互の日常的な関わりが希薄化する昨今ですが、中曽根地区においても自治会組織への加入に対する消極的な様子が見られるようになりました。しかし、災害のような非常事態が起こった際に助け合う関係づくり、安心して暮らせるまちづくりは、すぐにできるものではありません。したがって、日頃から住民自らが課題を出し合い、解決に向けて取り組む場や機会を設け、そして地域力の強化を図る地域コミュニティ活性化事業に取り組みたいと思えます。その拠点として、新しくなった公民館施設を存分に活用し、これまで公民館を訪れる機会が少なかった層の考えなども取り込むこと、新たな住民相互の関係を構築することにも寄与していきたいです。

なお、新しい公民館には「ふれあい教室」という、幼児やその保護者向けの活動を想定した部屋を設けています。今後は、子育て支援につながるような講座を開設し、子育てのしやすいまちづくりの拠点となるような活動も行うことができれば、より住民の満足度も

高まるのではないかと考えています。

**質問四 館長さん、最後に一言お願いします。**  
地域の皆様が公民館行事に積極的に参加してくださること、各種団体の皆様が中曽根地区をよくするために尽力してくださることに、大変感謝しております。地域のニーズに応じられるような活動をたくさん展開し、日頃から多くの方に足を運んでいただけるよう努め、住民相互の学習及び交流の場、そして中曽根地区の発展の拠点としてふさわしい場所になるよう、取り組んでいきたいと思えます。

## 伊方町町見公民館

### 清水 栄造館長さんにご質問

伊方町町見公民館

主任 畑 中 保 人



伊方町町見公民館  
清水 栄造 館長

**質問一 町見地区はどんなところですか。**

伊方町は、平成十七年四月に伊方・瀬戸・三崎の旧三町が合併し、新伊方町としてスタートしました。愛媛県の最西端、豊予海峡に突き出た「日本一細長い」佐田岬半島に位

置し、その長さは東西約四十kmにも達します。北に瀬戸内海の伊予灘、南に宇和海を臨み、年間を通じて恵まれた気候の過ごしやすい地域です。

当町には、公民館が四館あり、町見公民館は、伊方地域の西側に位置し、人口約一、四〇〇人・約六五〇世帯を管轄しており、年間平均約五、〇〇〇人の利用があります。現在、町見地区には各行政区ごとに自治公民館が十二館あり、小学校が二校・保育所が二箇所あります。他に、道の駅「伊方きらら館」や亀が池温泉、町見郷土館などの施設もあります。

**質問二 公民館の活動内容について教えてください。**  
町見公民館では、児童から高齢者までを対象とした数多くの公民館事業を展開しています。  
小学生を対象とした事業としては、友達・仲間づくりを目的とした「絵手紙教室」や「書き初め教室」、公民館で寝泊まりしながら、共同生活を行い豊かな人間性を育てる「通学合宿」を行っています。

その他の事業としては、家庭・地域づくりに寄与することを目的とした「男の料理教室」・「子育てをしている女性を対象とし、生き方や楽しさを学ぶことを目的とした」「コックスクール」、高齢者の共同学習や会員相互の融和と親睦を目的とした「町見老人大学」などがあります。

また、大きな事業として文化活動の推進や団体の育成を啓発し地域間の交流を深めることを目的とした、「町見公民館まつり」及び

「二見公民館まつり」を毎年実施しています。各地区、各種団体の作品展示及びバザー、「芸能発表のつどい」では、保育園児・小学生・中学生も参加してのダンス、劇、ブラスバンド演奏、そして各種団体の舞踊、箏曲、歌謡等もあり、当日は多くのお客さんが訪れ大変賑わいます。

町見公民館では、「集会所事業」で人権学習にも力を入れて取り組んでおり、人権啓発活動を総合的に推進しています。小中学生は、学力向上や仲間作りを目的とした学習会を行っています。学習会の指導は主に学校の先生にお願いしていますが、公民館職員が企画して、小学生は体験活動として門松作りやスケート体験活動等を行っています。中学生は、今年度夏季体験学習として熊本県水俣市と阿蘇市を訪問し、水俣病と熊本地震について学びました。高齢者講座では、町外視察、各種講座及び講演会への参加、調理実習、清掃活動など、交流を目的に積極的に活動しています。

また、本年度は新規事業としまして「町見人権学習会」を実施し、地域住民への人権意識の高揚を図りました。

**質問三 特に紹介したい事業はありますか。**

私は、平成二十六年から公民館長となり四年目ですが、新たに組み込んだ二事業を紹介いたします。一つ目は、昨年度から行っている「ふるさと再発見教室」です。子供たちに自分の住んでいる地域をもっと好きになってほしいと、町見地域の歴史や文化・伝承行事などを掘り起し地域の良さや魅力を再発見すること

を目的に始めました。開催時期は夏休みと冬休みに行っています。夏休みには、参加者全員で二回町見地域を散策し、昨年は「お地蔵さんめぐり」、今年には各地区の「神社めぐり」を行いました。三回目は地元の九町海岸で「海水浴とバーベキュー」を行いました。四回目は冬休みに、地元の高齢者が講師となり「昔の遊び」を教わりました。内容は、ゴムとび・コマ回し・けん玉・お手玉・お弾きを指導いただき、子供たちはとても喜んでいました。五回目は、「郷土料理」を教わりました。メニューはさつま汁・芋たき・酒まんじゅうでしたが、地域の高齢者と子供たちの楽しい交流の場となりました。今後は、地域の課題や日常生活で感じている身近な問題等も話し合い改善するための学習も行いたいと思っています



ふるさと再発見教室（郷土料理）

います。

二つ目の事業は、「町見人権学習会」です。本町では、十二月に町全体での「人権シンポジウム」、町内各地区で「地区別同和教育懇談会」が開催されています。参加者の固定化等の課題や、出席者から他の地域の人の意見も聞きたいとの声もあり、今年度から当館主催の学習会を開催することとしました。内容は、小学生三名の人権メッセージ発表、中学生による人権作文発表、そして講師の先生を招聘しての講演で今年は九〇名の参加がありました。公民館を拠点に活動されているグループ等の参加もあり、人権学習の輪が広がったと思います。

質問四 今後の抱負について教えてください。私は、過去に平成六年から八年間公民館主



町見人権学習会

事を経験しましたが、県公連主催の新任研修で先輩の公民館主事さんから教わった二つの言葉を今でも公民館職員として大切にしています。一つ目が、「同じ事業をするにも前任者がやってきたことを繰り返し満足するのでは無く、前任者が目指していたことを目標

# 元気な主事さん

## 『残す』『見える』地域づくり

久万高原町公民館 柳谷地区館

主事 平野 勝規

愛媛と高知の県境に位置する久万高原町は県内最大の面積を誇り、豊かな自然と昔ながらの人と人との繋がりが残る温かい地域です。その中で私が勤務する柳谷地域は人口約七百五十人で高齢化率六十五%越えの超高齢化地域です。しかし、柳谷にある柳井川・西谷・中津の三つの分館では「この素晴らしい地域を次世代に残したい」という想いで様々な地域おこし事業に取り組んでいます。私が取り組んだ事業の中で特に印象に残ったものを紹介したいと思います。

### 【柳井川クリーンデー】

柳谷地域では『柳谷壮年会』という組織が、長年に渡って山桜の植樹による景観整備に取り組んできましたが、平成二十八年度末に後

に事業を行ってほしい。」二つ目が、「自分が楽しくなければ参加者も楽しくない。担当者自らが楽しいと思える学級・講座を行ってほしい。」の二点です。今後も、地域のニーズに沿った楽しい事業を展開して行きたいと思っています。

継者不足で解散となり、地域の桜の手入れが出来なくなっていました。

そんな中、柳井川の有志が一人で桜の手入れを始めた事をきっかけに、公民館全体で桜を手入れしようという声が上がりました。実施に反対した方もいましたが、協議の中で国道沿いの花壇整備もしたいといった前向きな意見も次々に出始め、昨年十一月二十六日に柳井川クリーンデーを実施しました。

十一月末の寒さに加え、当日の天気は雨だったため、参加者は多くて三十名程と予想していましたが、何と七十名の方が参加し、半日かけて桜や花壇の手入れや国道沿いの草刈りや花の植栽をしてくださいました。

雨天にも関わらずたくさんの方にご協力いただき、地域が美しくなったのも感動的でしたが、作業後、実施に反対していた方から『あの時は反対したけどやって良かった。ぜひ来年もやろう』という前向きな声が聞けたことが本当に嬉しかったです。またクリーンデー実施後、自主的に地域の清掃活動をする人が増えた事も大きな成果です。今回の行事



柳井川クリーンデー



西谷花いっぱい運動

をきっかけに柳井川地域の連携が強まり、また景観整備の意識も高まったと大きな手応えを感じております。

【西谷花いっぱい運動】

西谷は日本三大カルストの四国カルストを含む広域な地域です。雄大な風景が魅力で夏の観光シーズンには四国カルストを目指してたくさんの方の観光客が西谷を訪れます。

その西谷地域で昨年の十月七日に『西谷花いっぱい運動』を開催しました。花いっぱい運動では、国道四四〇号線沿いの草刈りを行い、土地を耕してパンジーやビオラなど千株の花を植えました。

西谷地域は人口およそ二百人で、高齢化率が七〇%を越えますが「生涯現役」を目指す

地域住民の心を育てると共に観光客の目を楽しませて地域の活性化にも繋がることが期待されます。

【中津ホームページ】

最後に紹介する中津は、地域住民の結束力が強く非常に活発な地域です。

中津では、春の桜まつりを皮切りに夏から秋にかけて結い音楽祭・生オケ大会等の音楽イベント・田んぼの学校での自然体験学習、冬の芸能交流会など、地域の人・魅力を活かした様々な活動を行っており、また地域独自でホームページも運用しています。

中津の強みは何と言っても地域のまとまりでしょう。地域住民のほとんどが行事に協力的で、一声かければすぐに集まります。しか

元気な高齢者が多い地域で、この日もたくさんの方が高齢者が作業に参加し、手際良く作業をしながら「地域のために力になれるのが嬉しい」と笑顔で語ってくださいました。

クリーンデー終了後、地域住民からは草が茂って見苦しかった国道沿いにきれいな花が咲き、地域を散歩したり、車で走る時に花の成長を見るのが楽しみのになった。と喜びの声が聞かれました。

今後は水やりなどの管理を地域全体で行うことで、

し、人が集まるのには理由があります。

近年、全国的に公民館活動の参加者が減少傾向にあるとの話も聞きますが、それは活動内容が地域に浸透していないことも原因の一つではないでしょうか。参加者の増加には、呼びかけと併せて地域住民に行事の素晴らしさを知ってもらうことが大切だと思います。

そうした思いで、私は柳谷地区館主事に赴任した五年前から中津のホームページを活用した情報発信に力を入れてきました。公民館活動をされる方なら誰でも感じた事があると思いますが、行事の実施にあたっては様々な苦労がありますが、それだけに行事が成功して参加者に喜んでもらえた時の達成感はとても大きいものです。

そうした行事の喜び・充実感、何より地域の魅力をまずは地元の方に知ってもらいたいとの想いで、行事がある度にホームページの更新を行い、近年では中津のイベントだけではなく、柳井川・西谷の行事も掲載しています。こうした情報発信を通じ、行事の結果を『残す』ことで地域の魅力をたくさんの方に知っていただき、次の活動へのモチベーションに繋げてもらっています。

最近では地域の高齢者や同郷会の方もスマートフォンやパソコンで毎日のようにホームページを閲覧してくださるようになり、総アクセス数も六十五万件目前となりました。また、ホームページの内容が地域住民の話題となり、公民館活動に興味を持つ方や協力してくださる方が増えたと感じています。

他にも柳井川クリーンデーをはじめとする

各種行事の際には、実施状況を撮影した写真をラミネート加工して人の集まる場所に掲示しました。こうして活動の「見える化」を図ることで『活動に参加するのが楽しい』『写真を見る度、行事の楽しさを思い出す』といった声も聞かれるようになりました。

利己主義の風潮が高まる現代において、地域を育て守る人達は本当に尊い存在です。

そうした人々の『活動記録』や『感動』が人の目に触れることで地域の魅力は更に高まります。また情報発信との連携により地域住民の意識も大きく変わります。高齢化といって諦める必要はありません。能力を発揮する機会を待っている高齢者は大勢います。

情報・感動を共有し、地域の隠れた力と魅力を引出すことこそ地域おこしの一番の醍醐味ではないでしょうか。

今までもこれからも地域を創るのは人の力です。今後も柳谷地区館主事として柳谷地域の魅力と活力を引き出すために精一杯取り組みたいと思っています。

## なんちゃってアスリート

大洲市三善公民館

主事 森 本 浩 司

毎年二月に開催されている愛媛マラソン、多くのランナーが走っておられますが、簡単には出場することは出来ず、エントリーして

も抽選で落選して走れないランナーも多くおられます。

しかし抽選なしでエントリー出来るランナーがいることを知っていますか？

公認コースで開催されたマラソン大会に出場し、男子三時間三十分、女子四時間以内の記録があるランナーは、抽選なしでアスリートエントリーが行えます。

なんちゃってアスリートの自分も毎年抽選で落選していたのですが、高知県の高知龍馬マラソンに出場し、三時間二十五分で完走してアスリートエントリーが出来るようになりました。

「アスリートエントリーが出来ているなら『なんちゃってアスリート』ではないでしょう」と言われそうですが、自分は、学生の頃から運動神経が良く、スポーツなら何でも来い！ではなく、運動音痴で運動会の徒競走では必ずビリ、逆上がりも出来ず、今でもキャッチボールももとにも出来ません。

見た目ではスポーツが出来そうに見えるらしいのですが、そうではないので、人は見た目で判断してはいけないと身をもって感じている今日このごろです。

素質があつたということではなく、独学で長距離走を勉強して実践し、ただ走るだけの競技でも奥の深さを感じています。

例えば、アテネオリンピック女子マラソンで優勝された野口みずき選手の座右の銘の「走った距離は裏切らない」を信じて一ヶ月に四百km走りました。

一ヶ月四百km走るといことは毎日十三km

走ることがノルマとなり、休む日があれば別の日に距離を増やさなければ走ることが出来ません。

しかし走った距離に裏切られ、スピードが逆に落ちて遅くなった自分……。

速くなるためには、普段の練習でゆっくり走り走る日もあれば、息が弾むペースで走る日もあり、時には起伏があるコースを走る日も必要で、その結果、走った距離が長かったランナーが速くなっていると思っています。

なんとなく速く走れる練習方法が分かっていたのに、若い時と比べてほとんど記録が伸びていないことから、自分は「なんちゃってアスリート」であるというわけです。

そんなこんなで、なんちゃってアスリートの自分が大洲市三善公民館に配属されました。

この三善地区ですが、大洲市には「大洲市三善」という住所はなく、「大洲市春賀」、「大洲市東宇山」、「大洲市多田」の住所地が「三善地区」となっており、市内住民も「三善ってどこ？」と言う方がおられたり、また市外の方には「三善」を「みよし」ではなく、「さんぜん」という方もおられました。

「三善地区をもつとアピールしなくては」と思った自分は、個人的に左袖に「三善」、背中に「MIYOSHI」とプリントした「三善Tシャツ」を作成し、第五十四回愛媛マラソンに出場する時、「大洲三善公民館」でエントリーして、ウェアも「三善Tシャツ」を着て走りました。

沿道で応援

して下さって  
いる方々に、  
三時間ほど  
「三善」をア  
ピールして走  
り、また毎年

愛媛マラソンは南海放送でテレビ放送されて  
いるため、ゴール時に左袖の「三善」の文字  
をテレビカメラに向けて、愛媛の皆さんにア  
ピールしておきました。

これで、「三善」を「さんぜん」という方  
も少なくなりましたことでしょう。(笑)

その時の記録は、アクシデントもあり三時  
間三十四分三十四秒でしたが、お気づきで  
しょうか？ 語呂合わせになります、三十四  
分三十四秒「みよ」「みよ」「みよし」の記  
録です。これは、応援してくださいだった三  
善地区の方が言ってくださいました。なんて  
運命的なことでしょう。(笑)

個人の趣味で走っている長距離走、公民館  
活動で、この趣味を生かしたことが出来てお  
ります。大洲市で、毎年開催されている大洲  
市駅伝大会に、三善地区は以前から「三善公  
民館チーム」を作り出場しております。

メンバーは地区内の二十代から五十代の  
方々、自分も公民館主事としてメンバーに入  
り、九月から毎週水曜日に合同練習を行い、  
昨年七位から今年は六位になることが出来ま  
した。

先に書きました愛媛マラソンのアクシデン  
トとは、独学で練習したせいか、走った後の



ゴールで三善



三善公民館チームの選手

ケア不足で坐骨神経痛になっていたため、三  
十km付近から左脚の感覚がなくなり撃沈して  
しまいました。

これの治療により第五十五回愛媛マラソン  
は欠場。

リハビリをして何とか走れるようになりま  
したが、以前のような走りは難しくなってお  
ります。

愛媛マラソンのアスリートエントリーの資  
格は三年間有効ですが、第五十四回の記録は  
三時間三十分オーバー、第五十五回は欠場し  
たため記録なし、この伊予路が発行されてい  
る時期には結果は分かっておりますが、第  
五十六回愛媛マラソンで三時間三十分以内に  
完走出来なければアスリートエントリー  
の資格が無くなってしまいます。

## 郡市公連だより

### 地域主導型公民館の活動

新居浜市垣生公民館

主事補 伊藤 聡子

#### 一 はじめに

新居浜市の公民館は各小学校区に一館ず  
つ、金子校区には地域交流センター、大島地  
区には大島交流センターがそれぞれ配置され  
ています。それぞれの公民館では地域特性を  
活かした活動を充実させるため、公民館と地  
域のつながりを高めることに力を注いでいま  
す。

#### 二 主な取り組み

##### 地域教育力向上プロジェクト推進事業

地域の課題を住民が掘り起こし、住民自身  
の手で解決できるよう、個人が「学ぶこと」  
地域での事業に「活かすこと」、今後の方向  
性を「創ること」の三つから地域の特性にあ

現在、仕事が終わった後や休日に時間を作っ  
て走りこんでおりますが、今これを読んでお  
られる方で結果が気になった方はインタ  
ネットで結果を検索してみてください。  
果たして、なんちゃってアスリートの来年  
の出場資格はどうなっているのか？  
乞うご期待！

わけて選択し、実施しています。私が勤務している垣生公民館の事業をご紹介します。

垣生公民館では、小学生とその保護者を対象とした「家庭教育コース」、婦人を対象とした「婦人コース」、高齢者を対象とした「高齢者コース」、小学校高学年および一般の方を対象とした「文化コース」、その他「成人講座」「スポーツ健康教室」など地域とのつながりを重視して事業を進めています。また、子育て支援、児童教育にも力を入れています。

### ①垣生キッズ共和国

一昨年は、小学生が野菜を収穫し、地域の農家の方の協力を得て、販売体験を行いました。

また昨年度は、地元の化学会社OBの方をボランティアとして迎え、分光実験やペット



ボトル空気砲の工作などの体験を行いました。

### ②イルミネーションファンタジー

垣生校区で毎年恒例となって定着しているイルミネーションの点灯式には多くの方が参加して交流を深めています。公民館や近くの垣生山の頂上を彩る電燈が、十二月中旬から一月中旬まで多くの人の目を楽しませています。



### ③垣生校区三世代軽スポーツ大会

昨年からはじめた事業です。PTAをはじめ各種団体、シニアボランティアクラブの方と児童が、小学校体育館でスマイルボウリング、輪投げ、カローリングなど和気あいあいと楽しむことができました。競技の後は保護者、職員の手作りのカレーで親睦を深めました。

### 三、おわりに

昨年実施した事業を思い出しながら、この文章を書いていて、これからの公民館のあり方が今までどおりでいいのかと自問自答しました。今度はこのようにしたらいいなあ、と思いついてきてないことも多いのではないかと感じています。今は様々な書籍やインターネットを通じて生涯学習や地域のつながりに対する情報が気軽に入手できます。今回の原稿をまとめるにあたり、日頃からの情報収集が大切だと感じました。

## 地域づくりと公民館

### ～西予市遊子川公民館の取組～

西予市遊子川公民館

主事 久保田 学

#### 【集落消滅の危機感から始まった地域づくり】

西予市城川町遊子川地区は、西予市の中心部からは東に約三十kmの地点で地区の東側は、高知県と四国山地の分水嶺をもって接しており、地区内の人口約三百人、高齢化率五十%超といわゆる限界集落です。地区内には公共施設として遊子川公民館があるのみで、基幹産業は農業であり農家戸数は全体の七十%を占めています。

このような遊子川地域に住む約三百人の住民は、地域を盛り上げようと一丸となって地域づくり活動に取り組んでいます。平成二十年度、地域の直面している課題を住民自身に把握してもらうため、公民館において限界集

落に関する学習会を開催。地域消滅の可能性の危機感から住民自身が立ち上がったのが地域づくりのスタートでした。その後も勉強会は続き地域づくりの必要性を感じた住民たちは、全住民を会員とした遊子川地域活性化プロジェクトチームを設立。その後、自分たちで十年後の集落のあり方を想像し、それを実現するため遊子川集落づくり計画書を策定し活動を行っています。

### 【トマトを使った地域づくりと映画制作】

さまざまな課題に取り組むため、同チーム内に各部会を設置。その中でもトマト農家の女性を中心とした特産品開発班では地域特産品の大王トマトを活用した加工品開発に着手。実は地域の農家は、自家製でさまざまな加工



品を独自に生み出しており、その知識や技を地域資源と捉え、皆でアイデアを出し合いながら「トマトゆずボン酢」や「青トマトの粕漬け」などの加工品を完成させ自ら都市部へ赴き販売しています。特産品開発班という名称も、トマトに多く含まれアンチエイジング効果のあるリコピンという成分から「遊子川ザ・リコピンズ」とし、「まちづくり、ひとづくり、わかづくり」を合言葉にリコピンパワーで地域の元気のタネを育てています。加工品開発が進む一方、「遊子川」は地域外では知名度が低く、大きな課題となっていました。そこで取り組むことにしたのが、PR映像の制作です。

映画づくりは地域のPRはもとより、ひとつの作品に多くの人間が関わり作り上げていくもので、これを地域で作るとコミュニティの活性化に大きく貢献するのではないかと考えました。そしてより多くの方に興味を持ってもらうためにも、ストーリー性のある映画の中にトマトや地域の美しい風景、文化を登場させることとしました。そうして松山市の自主映画製作グループである自主映画の会「ヒメブタの会」の技術協力を得て完成させたのが、住民自身が演じた手作りの自主製作映画「食堂ゆすかわ」です。この映画の効果は、地域外に遊子川の魅力を発信するだけでなく、映像を通じて自分たちの地域を再確認する機会にもなりました。最初は出演を嫌がっていた住民も完成を心待ちにするようになり、住民同士の繋がりを深め地域に自信と誇りを持っていただくことができました。地域で自



主映画を作った反響は大きく、各メディアでも取り上げられたこともあって各地で上映会を行い、多くの方に遊子川を知ってもらうことができPRとしての効果も大成功だと思えます。映画の完成に合わせて、平成二十六年四月にはトマトをはじめとした地元野菜をふんだんに使った料理を提供する農家レストランをオープン。農家レストランの名前は映画と同じ「食堂ゆすかわ」で看板は映画で使用したものをそのまま使用しています。映画と実際のレストランをリンクさせることでこちらも話題を集めており、地域内外から多くの方が訪れています。

### 【地域づくりの成果と今後】

「何も無い集落」の住民が限界集落問題を

学び、気づき、地域一丸となって地域づくりを行った結果、遊子川自慢のトマトの特産加工品は多くのファンを獲得し、農家レストラン「食堂ゆすかわ」に訪れていた多くの方など、今まで皆無であった遊子川地区の交流人口は年間三千人以上となり多くの方が訪れる里山となりました。

今後、加工品販売と農家レストランの運営をますます飛躍させるため、平成二十八年四月、遊子川ザ・リコピンズを企業組合として

法人化。公民館活動からスタートした地域づくりはこの小さな地域に会社を作り、雇用創出に大きく貢献しています。しかしながら、トマトを中心とした取り組みを進める一方で、人口減少は続いており特産品の原材料を供給するトマト農家も高齢化が進んでいます。現在、こういった課題にも対応するため、新たな取組みとしてトマト農家の育成と移住定住についても、地域とともに進めているところです。

## 第二十九回 全国公民館セミナーレポート

松山市小野公民館 主事 田所 佳奈

第二十九回全国公民館セミナーが「公民館がひらく 地域の未来」をテーマに開催され、参加させていただきました。

これからの時代、公民館が各所から期待されていることを感じました。

初日の前半は、社会教育を専門とする東京大学大学院教育学研究科教授の牧野 篤氏とコミュニティデザイナーの㈱studio「代表の山崎 亮氏をお迎えして、NPO法人教育支援協会代表理事の吉田 博彦氏進行の座談会を行いました。

山崎氏は、もともとは公共空間のデザインを専門にされていましたが、住民参画でデザインを進めていくうちに住民の意見を聞くことの仕事が多くなっていき、最近では社会教育の内容からお声がかかるようになったそうです。自分たちで社会をつくる楽しさを学

ぶことができるようなプログラムを公民館主催でできるといいなと話していました。一人でも「自分たちのまちをどうつくるか」を考えてくれる人が出てきたら大成功です。

牧野教授によると、社会教育の責務は「自治力」を育てることにあるそうです。昭和の時代は大企業や学校などの組織に属して周囲と同様な生活をしていれば幸せという安心感がありました。が、多様化している平成の時代は、所属意識がなくなっており、個人を育成しても自分だけが得をしたらよいという考え方になってしまいます。「私にとって良いことはみんなにとっても良いこと」という集団としての個を育てるのが公民館に期待されており、信頼・楽しい・相手を喜ばせたいという気持ちを共有できるような関係性の構築が求められています。

また、公民館が小さなサークルをたくさん作るお手伝いをしてほしいと期待してました。例えば、公民館の講座でお茶を学び、それだけで終わりではなく、講座で知り合った人とグループになり、子どもたちに学んだことを伝えるようになること、この社会を担っている実感を持つようになり。現在、松山市の公民館で行っている放課後子ども教室は公民館で活動されている方が先生となりそれを小学生に教えているので、とても良いサイクルができていますと実感しました。

初日後半は、「公民館のこれからを語る」と題して、文部科学省生涯学習政策局社会教育課長の八木 和広氏、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局参事官の吉田 誠氏、厚生労働省から東京海上日動へ出向している上田 尚弘氏、総務省から柏市役所へ出向している北村 崇史氏を前半の三名に加えて座談会を行いました。

まず、公民館を所管している文部科学省生涯学習政策局が総合教育政策局へ再編されることについて、八木氏は、公民館での学習が公民館の中にとどまっておらず、その後の動き出しにつながっていないのは、教育委員会の中だけで公民館を考えているからではないかという見解でした。公民館と行政局の連携など、公民館の活動範囲を広げていくことを文科省は支援したいそうです。ある自治体では、観光と学習をつなげるという考えのもと、修学旅行の誘致を見据えて観光課に社会教育主事を積極的に配置しているそうです。社会教育が公民館の中から積極的に外に出て行くこ

とを期待されてきました。

上田氏によると、要介護を予防するためには、①食事（栄養）、②運動、③コミュニケーションが重要だそうです。静岡県が健康寿命の日本一に輝いたのは、緑茶のカテキンの効果に加え、みんなで集まってお茶を飲んでいるからではないかという見解があります。また、スポーツ関係・ボランテア・趣味関係のグループ等への社会参加の割合が高い地域ほど、転倒や認知症やうつつのリスクが低い傾向がみられるそうです。健康とは、「病気がないか」ではなく、「良好な人間関係の中で生きていく」ことであり、公民館事業にたくさん参加者を集めることが地域の方々の健康につながると思います。

内閣府の吉田氏は地方創生には「実際に人



と会う」ことの力がとても大きく、公民館が地域のたまり場、人のつながりの拠点になってほしいと期待されてきました。内閣府では、地域住民自らによる主体的な地域の将来プランの策定とともに、地域課題の解決に向けた多機能型の取り組みを持続的に行うための組織（地域運営組織）の形成を推進しています。役所から言われたから作った、補助金もらえるから作った、というのではなく、地域の方々が集まって課題解決のための自治を行う組織として機能してほしいと願っています。

北村氏は、地方創生関連の話題は教育委員会に來ないでまちづくり課や企画課に來ることが多いが、地域の人を見つけたり育てたりする公民館にも話が來るべきではないかと話

されてきました。地下アイドルやインディーズバンドを応援することを「自治」と呼んで積極的に仲間と関わっているように、自分たちのまちを自分たちで自治したいという地域づくりを期待されていました。

二日目の最初の講義は、東日本大震災以降、被災地での無料法律相談活動が行われている弁護士岡本 正氏でした。生活の見通しが立たないことが不安であると相談内容を分析したことから、防災を「自分ごと」と感じ、生活再建の知識の備えを学べるような研修「防災の家計簿」を研究されています。災害時の避難所である公民館で防災の研修を行うことは、より自分ごとと想像しやすいのではないかと話していました。

次に、牧野教授による講義が行われました。印象に残ったのが、公民館など地域の活動に熱心に取り組む層には、共通して十五歳までの地域活動の分厚い体験があるという研究結果が出ている事です。最近の若者は、仕事は自分でつくったらい、インターネットがあれば仕事はできるといふ考えの下で、利便性より自然環境、地域参加意識、競争より充実に価値を感じており、「よく帰って来たね」と言われる地元や「よく来てくれたね」と言われる田舎に都会から移っている傾向があるそうです。

今年度、松山市公民館連絡協議会主事部会では、公民館への若者の参画推進を研究テーマとして現状調査

のためにアンケート調査を実施しました。牧野教授の講義を聞いて、今後、若者の参画を推進するために、小中学校との連携をさらに深めた事業を推進するという方向性が見えたような気がしました。

午後からは、地域参加で映画制作を行っている、ものがたり法人 FireWorks 取締役の栗山 宗大氏を講師に迎えて公民館の利用者にスポットを当てた九十秒映画を各グループで製作しました。このワークショップは、①同じ課題に取り組むことで、仲間と一体感が得られる、②映画をつくるクリエイティブな体験を通して、想像力と創造力を育む、③多様な人たちのチームで、みんなで一つのものに取り組むことで、時間は短くても、つくりあげる体験が得られる、という効果が得られるアクティブ・ラーニングという手法の一つだそうです。

映画制作ワークショップの際に、福井市社北公民館主事の田中 典子氏と今年の松山市公民館研究大会にお越しいただいた大竹市立玖波公民館主事の河内 ひとみ氏から活動を伺う機会がありました。社北公民館では、中学生が一部活動一ボランティアという取り組みを始めて八年目になるそうで、チャオカード作戦という小学生親子の体験型学習でも中学生になったら運営に参加するなど、中学生が公民館活動に大活躍されている様子がかがえました。また、玖波公民館主催で開催したファッションショー「くぼコレ」では、祖母の思い出とともに家に眠っていた着物を着て涙ながらにランウェイを歩いた方のお話

が印象に残りました。

夜は、ものがたり法人 FireWorks で制作した映画「惑う -after the rain-」の観賞会を行いました。静岡県三島市の「みしまびとプロジェクト」三島の映画を作る」といって、映画作りを通して地域の未来をつくる人をつくるプロジェクトからできた映画です。三島に実際にあった寺子屋を舞台に家族愛をテーマにした思わず涙してしまう内容で、加えてエンドクレジットにスクロールでは載せられないほどのたくさんの方の協力者の名前があり感動しました。

三日目は、文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課障害者学習支援推進室長の橋田裕氏から「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」という講義がありました。現状、障害を持つ人を対象とした生涯学習事業を実施している自治体は二・一九%と少なく、人材不足や予算や施設・整備がないことに原因があるそうです。

最後のプログラムは、「若者がつどう・まなぶ・むすぶ公民館」と題したシンポジウムでした。桜の聖母短期大学キャリア共用学科学准教授の三瓶 千香子氏をコーディネーターに迎え、ゲストスピーカーは高知県南国市立稲生ふれあい館「稲生公民館」顧問の前田 浩氏、福島県福島市吉井田学習センター主事の安西 裕紀氏、沖縄県那覇市若狭公民館館長の宮城 潤氏でした。

稲生公民館では、小学校を核にした地域教育力の再生を目標に、PTA組織にC・コミュニティ(地域)を加えたPTCA組織づくり

を二〇〇五年から行っています。国語の授業で行う高齢者と小学生の絵本の読み合いは、小学生の読書活動の定着だけでなく、高齢者の生きがい・健康にもよいとされており、双方に良い効果をもたらしています。

安西氏は、三瓶准教授のゼミに毎週参加し、大学生の生の声を聴いて、若者と一緒にインスタ映えを狙った事業を企画立案・運営することで、参加者が以前の三倍になったそうです。また、若者はSNSから情報を得ているので、情報発信の手段としてSNSを活用したと話されていました。

若狭氏によると、那覇市の自治会加入率は一九・〇%ととても低く、公民館は「利用しづらい」「興味を持ってない」「存在を意識したことがない」と思われているので、公民館が変わらなくてはいけないと強く感じたそうです。そこで、毎週水曜日の十九時から公民館の大きな面を使ってテレビゲームをする事業や、毎月第四土曜日に一品持ち寄り朝食会を開いたことで、新しく公民館に来る人が出てきました。朝食会は百回を超えて開催しており、別の公民館ともインターネットを通して合同開催するなど活動に広がりを感じられました。

この三日間にたくさんの方々の講師の方々から内容の濃いお話を聞くことができ、大変勉強になりました。この研修を通して得た知識や人脈を今後の公民館活動に活かさないか検討をしたいと思っています。このような機会をくださり、大変感謝しています。ありがとうございます。

# 【新しい公民館像を求めて～公民館の不易と流行～】

## 平成二十九年年度 愛媛県公民館研究大会 【記録】

会場 大洲市民会館 ほか

平成二十九年年度 愛媛県公民館研究大会（主催 愛媛県公民館連合会・愛媛県教育委員会）が、「新しい公民館像を求めて～公民館の不易と流行～」を大会主題として、十月二十五日（水）に大洲市民会館ほかを会場に盛大に開催されました。

開会式には、中村時広知事（代理 井上正愛媛県教育委員会教育長）、毛利修三愛媛県議会議長、清水裕大洲市長、土居英雄愛媛新聞社長（代理 柳田幸男専務取締役）ほか、多数のご来賓の方々のご臨席を賜りました。

大会の開会行事では、越智保二愛媛県公民館連合会長の開会あいさつ、来賓祝辞に続いて、各部門の表彰が行われました。

県教育長と県公連会長の連名表彰では、優良公民館九館及び優良公民館職員十九名、県公連会長表彰では優良公民館五館、優良公民館職員五十一名、優良自治公民館九館、優良団体・グループ三団体、優良グループリーダー三名、優良協力者六名、県公連会長感謝状では、永年勤続公民館運営審議会委員二十三名、更に愛媛新聞社長・県公連会長の連名表彰では、館報コンクール入選十五館にそれぞれ表彰状・感謝状が授与されました。

開会行事に続きまして、本年三月、文部科学省で行われた第六十九回優良公民館表彰において最優秀館に選ばれた西予市城川町の遊子川公民館による事例提供が行われ、その後、文部科学省生涯学習政策局社会教育課課長補佐丹野史教先生に「今後の社会教育の推進と施策の動向」と題して講演をしていただき、今後の公民館活動に活かせる大変有意義なお話を伺いました。

午後からは、五つの会場に分かれまして、分科会A「人権意識を育てる公民館活動」同B「地域の特色を活かしたプログラム開発」同C「住民参画の推進」と公民館活動の評価のあり方」同D「学校支援活

動や学社融合、また青少年の体験活動を推進する公民館活動」同E「家庭教育を支援する公民館活動」の五つのテーマの五つの分科会が開催されましたが、各分科会とも熱心に討議が行われました。以下、当日の分科会の記録に基づいて、その要旨を掲載します。

### 【分科会役員】

#### 〈分科会A〉 テーマ「人権意識を育てる公民館活動」

運営責任者 県公連理事

会場責任者 大洲市肱南公民館館長

助言者 大洲市市民福祉部人権啓発課人権啓発指導員

司会者 砥部町教育委員会社会教育係長

発表者 宇和島市立三間公民館主事

発表者 西条市大町公民館館長

発表者 久万高原町教育委員会生涯学習班係長

#### 〈分科会B〉 テーマ「地域の特色を活かしたプログラム開発」

運営責任者 県公連理事

会場責任者 大洲市中央公民館館長

助言者 内子町立五十崎自治センター館長

司会者 東予教育事務所社会教育課社会教育主事

発表者 伊予市双海地区公民館主事

発表者 大洲市柳沢公民館係長

記録者 伊方町中央公民館室長

#### 〈分科会C〉 テーマ「住民参画の推進と公民館活動の評価のあり方」

運営責任者 県公連理事

会場責任者 大洲市河辺公民館館長

助言者 西条市玉津公民館館長

司会者 八幡浜市立喜須来地区公民館館長

発表者 今治市別宮公民館主事

#### 公民館活動の評価のあり方

発表者 松前町北公民館主事

武智 優

森永 茂

村上 孝之

亀松 貴浩

宮川 敦

矢野 文和

川崎 具美

小玉 浩幸

堺 勝俊

上石 富一

越智 洋子

隅田 直軌

宇高 将志

谷口 良二

日和佐博定

長岡 盛光

川上 善秋

毛利 博文

越智 紀幸

森本 純也

記録者 宇和島市立日振島公民館主事 島山ひとみ  
〔分科会D〕 テーマ「学校支援活動や学社融合、また青少年の  
体験活動を推進する公民館活動」

運営責任者 県公連理事

会場責任者 大洲市今坊公民館館長

助言者 四国中央市三島公民館館長

司会者 東温市中央公民館副館長

発表者 愛南町長月公民館主事

新居浜市立惣開公民館主事

記録者 西予市中央公民館主事

〔分科会E〕 テーマ「家庭教育を支援する公民館活動」

運営責任者 県公連理事

会場責任者 大洲市長浜公民館館長

助言者 伊予市双海地区公民館館長

司会者 松野町中央公民館主事

発表者 松山市味酒公民館館長

西予市狩江公民館主事

記録者 上島町弓削中央公民館主事

大木 敏郎

久保貴美男

徳永 幸夫

高原さゆり

前田 和紀

明日 博美

木下 麻由

重信 昭雄

田中 誠

森田 清延

岡本 渉

土居 貴美

平田 茂雄

徳永 泰明

1 大町校区の概要

2 大町公民館の取組

3 大町公民館における人権学習会の取組

4 おわりに

## 2 質疑応答

Q 宇和島市生涯学習課 課長補佐 富田 満久

大町公民館さんへ、サークル及び利用団体との兼ね合いを聞かせてほしい。

A 西条市大町公民館 館長 矢野 文和

サークル・団体については年二回打ち合わせをしており、その中で、懇談会の日程と参加してほしい旨を説明しているが、懇談会にサークルが出ているかどうかは確認していない。

Q 大洲市菅田公民館 館長 中野 伸一

三間公民館さんについて、

地域の参加者が多い少ないが問題ではない。

推進員のメンバーになることが大事。

公民館が主体的に開催する行事があるのかどうか。

大町公民館さんについて、

学社融合が大事であるが、先進地で学ぶ現地研修をやっているのかどうか。教えてほしい。

A 宇和島市立三間公民館 主事 宮川 敦

公民館主体の人権学習は実施していない。

「であい・ふれあい・みんなの人権講座」に力を入れている。

一カ月十四か所の自治会に出前講座を実施するようにしている。

教育係担当・隣保館・公民館の職員が場所を分担し進めている。

民生委員・PTA等の役員・学校関係者が推進協議会に入ったという

ことで、ここで学んだことを各組織に戻って広げてほしいと頼んでいる。

人数ではなく、新しい人を一人でも多く集めることが大事。

A 宇和島市立三間公民館 館長 安岡 賢司

以前は教育委員会が実施したので、公民館が入っており職員も七～八人いたが、合併により人数が三名と大幅減少したのでなか

## 【分科会協議記録】

分科会A「人権意識を育てる公民館活動」

### 1 発表要旨

○宇和島市立三間公民館 主事 宮川 敦

「人権教育における三間公民館の取組」

1 三間公民館の概要

2 人権教育の取組

(1) であい・ふれあい・みんなの人権講座の取組について

(2) 三間町隣保館まつり

3 今後について

○西条市大町公民館 館長 矢野 文和

「大町幸せな町づくりの推進」

なか公民館だけではやれないようになった。三間は三校区あるが分かれてこの話もあったが一箇所で行っている。今回は部落差別なのでこれからは行政も集って実施したい。

A 西条市大町公民館 館長 矢野 文和

先進地に学ぶということだが、たまたま人権同和教育活性化事業があり、講座等は実施した。

毎年実施しているのは大町幸せな町づくりの懇談会と隣保館との合同の人権学習会を実施している。

ただ、人権の学習会等は事ある毎に実施したい。外部研修は実施していない。

Q 宇和島市立三間公民館 館長 安岡 賢司

きめ細かい事業で驚いているが、役員の任期はどれくらいか。PTAの役員の任期はどれくらいなのか。

時間的なこと等を教えてほしい。

A 西条市大町公民館 館長 矢野 文和

自治会は四十一ある。ほとんどの自治会は交代する。毎月二十九日に定例会を実施している。

七月の第一週の月と火がPTAの会になっており、実施日をその日に当てているが、それまでに勉強会をするには間に合わない。四月の段階でマニュアルを自治会長へ渡し、推進員を必ず割り振り、推進員さんが補足やまとめをしている。逆に四月に入ると学校関係と打ち合わせ等を急いで実施している。また、PTAの役員については把握してないが、各役職の一覧を作っており、だれがどこに張り付いているか把握している。

一人で実施するわけではないので各会場から問題等は上がってきてはいない。

Q 大洲市肱北公民館 運営審議会委員長 青木 憲一

学習教材で色々選定をしているようであるが、差別落書き・遍路道ノートに差別書き込みとあったが、詳細を聞かせてほしい。

A 宇和島市立三間公民館 主事 宮川 敦

駅のホームの柱に差別落書きを発見し、落書き自体は直ぐに消した。また、書いた当事者も確定されていたのでに直接会って指

導した。

遍路小屋にノートを設置していたが、外国人排除の書き込みが発見されたため、ノートについては廃止した。

また、定期的に点検をしているとのこと。

### 3 分科会テーマに対する研究協議

○大洲市菅田公民館 館長 中野 伸一

先進地視察の話をしたので、菅田公民館の話をしたい。大洲市役所の中に人権啓発課があり、一昨年は感染症の研修を

高松で実施、昨年は松山の道後温泉で研修した。道後温泉の中でも、温泉につかるのにも差別があった。今年にはロシア人墓地の研修を計画している。半日は研修をして、

買い物をして帰るといふのを計画している。全員で十五名程度。楽しみながら人権問題について研修をしている。過去には高知県の教科書無償提供等を研修した。

○助言者 大洲市市民福祉部人権啓発課

人権啓発指導員 村上 孝之

部落差別解消法についての話があったのでどのように周知したかという方法を聞かせてもらいたい。広報についても出されたということなので、どんなふうに書かれたか聞かせてほしい。また、他の公民館の方で部落差別解消法について取り組んでおられた方がいたら教えてほしい。

○宇和島市立三間公民館 主事 宮川 敦

部落差別解消法については、会場に学校の先生がいた。今回は恒久法であった。説明についてはパワーポイントで実施した。広報については正月版で出す予定である。

○宇和島市立三間公民館 館長 安岡 賢司

今回法律が出来たということで、このことが一つのきっかけになるのではと思った。

○伊方町 社会教育指導員 長野 照道

周知については、広報で通知した。米田先生に人権協の総会時に講演をしていただいた。

九月から十一月にかけて地区別懇談会時に資料に差別解消法の

全文を入れ周知した。

○宇和島市立蔭淵公民館 館長 中島 仲義

研修の経費について教えてほしい。

○大洲市菅田公民館 係長 田中 琢男

菅田公民館については市から補助金が出て経費が出ている。昼食については個人負担。バスも市から出ている。

○久万高原町公民館下畑野川分館 館長 渡部 壽彦

DVDを視聴するという話があったが、選定についてはどの差別にしたのか。差別解消法について、DVDで全文等があるかどうか。

○宇和島市立三間公民館 主事 宮川 敦

昨年一昨年実施したのは、「え、これも人権」で実施したが、今年実施したのはパワーポイントで実施した。

○宇和島市生涯学習課 課長補佐 富田 満久

宇和島市では身元調査お断りの取り組みを三年前から取り組んでいる。

○宇和島市立蔭淵公民館 館長 中島 仲義

個人ごとであるが、十年ほど前に息子の結婚について、調べたのかと聞かれた。また、去年か一昨年ぐらいに呼んだ講師の「お年寄りに向かって貴方達が差別するのは仕方がない。でも、後のものには何も言わずに死んでくれ」というのが印象に残っている。

○助言者 大洲市市民福祉部人権啓発課

人権啓発指導員 村上 孝之

今の発言を聞いて疑問点がある。高齢者が差別意識を持っているというのとは一つの偏見である。高齢者の方でも毎回毎回こういう研修を受講している方は逆に差別意識はない。若い人でも差別意識を持っている人はたくさんいる。私たちがやることはコツコツと研修をしていくことに尽きる。少ない人数でも実施していくことが大事。

#### 4 指導・助言

○助言者 大洲市市民福祉部人権啓発課

人権啓発指導員 村上 孝之

まず発表された方にお礼を申し上げたい。活発なご意見をいただいたフロアの皆さんありがとうございます。

①様々な機関や組織で構成された人権啓発の組織を基に地域住民の方に啓発を行っていた。

②継続することの大切さ

差別の現状があるのでとにかく継続することが大事  
取り組みの継続が難しくなることがあるかもしれない  
こういう状況だから断念するのではなく、知恵を絞って工夫してほしい。

③連携の大切さ。

公民館だけでなく、他団体と連携をとって実施している。

・お願い

①研修の機会を確保してほしい。

(人が集まるところにこちらから出向くようにする)

②様々な人権課題があるが、人権問題をおろそかにしないでほしい。

③差別の現実や学ぶ視点を変えてほしい。

④同和問題の解決に向けて筋道を明らかにする。

⑤部落差別解消法の啓発

法律があるからやらなくてはいけないのではなく、法律があるうとなかろうと差別の現実が残されているから行う。

#### 分科会B「地域の特色を活かしたプログラム開発」

##### 1 発表要旨

○伊予市双海地区公民館 主事 隅田 直軌

「地域の歴史文化の再考と公民館活動」

1 双海地区公民館の概要

2 地四国八十八ヶ所調査と公民館の取組

(1) 取組の概要

(2) ことの始まり

(3) 調査の意義

(4) 調査の実現に向けて

(5) その後の展開

3 取組の課題と今後の展望

○大洲市柳沢公民館 係長 宇高 将志

「地域資源を活かして生涯現役の幸齢者へ」

1 柳沢地区の概要

2 柳沢地区の特色

(1) ゲンジボタル

(2) 藤縄神楽

(3) 雲海展望公園（標高五百m）からの眺め

3 「柳沢ほたるまつり」について

(1) 田処会場（柳沢公民館田処分館と熊野神社…ほたる鑑賞会場）

(2) 柳沢会場

4 公民館報、ブログ、フェイスブックによる情報発信

(1) 柳沢公民館報（毎月発行）

(2) 柳沢公民館のブログ、フェイスブック（毎月三本程度）

5 おわりに

## 2 質疑・応答

Q 大洲市久米公民会館 館長 鳴滝 久照

柳沢公民館の宇高さんに質問する。地場産業を発展させる工夫をしているか。例えば椎茸とたけのこで城川のように年間を通じてお客さんをお呼ぶような対策を講じているか。また、畠にかかった猪は何日も置いておくと臭いが出るということで、すぐに料理すると臭わないと聞いたのだが、どのように処理しているか。えひめ憲一さんのご両親が住んでいるという発表だったが、祖父母が住んでいると聞いている。この三点をお聞きしたい。

A 大洲市柳沢公民館 係長 宇高 将志

地場産業の発展については、グループをまだ探しておらず、先ほどの話の中にもあったが、ジビエの先進地視察に加工品グルー

プを連れて行ったたりするので、そういった方々と今後話を煮つめながら進めていこうと思う。

地元の林業研究会のグループが二十三名、地元の有志の方や高齢者の方、後継者もかなりいらつしやる。地元としても取り組み、一応生産はしているが中々人数が確保できておりません。たけのこはどこで取っても構わないと言っているが、手間がかかることがネックとなっているようです。老人会の方にもご無理を言って組合組織のようにして集めて大量に生産してはどうかという話を打ちかけているところです。

猪が畠に掛かった臭いについては、畠に掛かったところから悪い血が次々と体の中を巡り、さばいたときに臭くなると聞いた。私が柳沢で食べたものは、すぐにさばいて血抜き処理もされていたので臭みはなかった。

それから、えひめ憲一さんについては、祖母が柳沢で暮らしておられます。

Q 八幡浜市江戸岡地区公民館 主事 菊池 賢一

柳沢公民館の発表の中でイベントがたくさんあり行ってみたいと思ったが、駐車場関係は大丈夫なのか。

A 大洲市柳沢公民館 係長 宇高 将志

ほたるまつりの際は、小学校の第二グラウンドが一つ上の段にあり、そこに百台程度と手前にも五十台程度置ける所があり、一か所ではないが、それぞれの場所に駐車場がある。ほたるまつりの際は消防団の方に手伝ってもらい交通整理をしてもらった。二百台程度会場の近くに置ける。雲海まつりの際も雲海展望公園の道路を挟んだ裏側に五十台くらい駐車することができ。ブログにも載せているので、「雲海展望公園」で検索してブログで公園の詳細を見たらと思う。

Q 大洲市出海公民館 館長 鈴木 俊彦

柳沢公民館にお聞きしたい。藤縄神楽をイベントに呼んだら来ていただけるのか。その時の公演ではいくら必要なのか。

A 大洲市柳沢公民館 係長 宇高 将志

大体八万円から十万円必要で、準備・移動を考えると、ひとり

一人役の日当は欲しいというところがあり、八名から十名で行きますので長浜でしたらそのくらいの金額で舞ってもらえると思う。

Q 宇和島市岩松公民館 主事 村尾 智幸

お二人に対してお聞きしたい。自分たちの地域を見つめる為に大事にした方が良く、気を付けたら良いこと、ご助言等よろしく願います。

A 伊予市双海地区公民館 主事 隅田 直軌

私個人が特に気を付けていることは、何気なく見た風景の中に疑問を持つことだと思う。例えば道沿いにある何気ない石などそういったことから地域が見えてくることがあり、先ほど柳沢公民館の発表の中で川に青石があると云われ、実は双海にも青石があり、双海にある川では、松山側は黄色っぽい石で、長浜、内子、大洲側は青石があるという全く右と左で石が分かれている川があり、お地藏さんの屋根の部分の石は青石で、この石は割ると平べったく割れ双海の家を軒先にこの石が使われている。そういったことから道端に転がっている何気ないものや普段見る風景の中から地域の方の生活が見えてくるものがあり、何気ないものに興味や疑問をもつことを大切にしている。

A 大洲市柳沢公民館 係長 宇高 将志

プログラム開発する上で大切なことですが、僕一人では中々限界があるので、みんなが公民館に集まりやすいような雰囲気を作ることが大事だと思う。公民館に来てもらい何気ない会話、普通の会話の中でヒントになる意見が良く出るので意見を出しやすい雰囲気を作るのが大事だと思う。他愛もない会話からキムチ作り教室が始まり、その話を持ち上がった時に長浜の豊茂公民館の方々が行ってたキムチ作り教室のシステムを真似したのがこの教室です。結局、話をする中でアイデアが出てくると思うので、一緒に話しながら何かを目指していくのが大事だと思う。公民館の窓口にストーブや扇風機を置き、気軽に集える公民館作りを大事にしている。

### 3 分科会テーマに対する研究協議

○司会者 東予教育事務所社会教育課

社会教育主事 越智 洋子

先程の実践発表や質疑応答を踏まえて各公民館の実践事例等を発表していただけたらと思います。各公民館では、それぞれ地域課題への対応や地域コミュニティの再生を考へてのプログラム開発に取り組みられていると思いますので、その辺のことをお話しいただけたらと思います。

○新居浜市多喜浜公民館 館長 今村 美鈴

私達の住んでいる多喜浜地区は、新居浜市の東の端に位置し塩田で栄え、多喜浜という地名が誕生しました。新居浜市の発展は、南の別子銅山と多喜浜の塩田で形作られたといっても過言ではありません。

この歴史を後世に残すため、私達は、多喜浜小学校の中に塩作りの体験場と塩田学習館を建設し、市内の六年生を対象に「ふるさと学習」という行事を行っています。

公民館でボランティアを募り、子供達やサークルの団体などに指導しています。

先日は、塩田体験場の流下式の枝条架を先生、小学生、保護者の方々と張り替える作業を行いました。これは三年に一度行う作業です。

今、私達の町は、公民館・小学校を中心に塩田で盛り上がりつつあり、大きな事業の一つとなっています。

○司会者 東予教育事務所社会教育課

社会教育主事 越智 洋子

小学校と連携してふるさとを学ぶということでも大変良い活動をされていると思いました。

○大洲市八多喜公民館 運営審議会委員 武内 八重子

最初に発表した柳沢公民館主事さん、本当に素晴らしい発表でした。赴任されて三年余りの中でこれほどの地域に密着した発表をされるといふことは、どれほどに地域に泊まり込んでずっと一緒に地域住民と生活しているのかと感銘を受けた。私の地元のことを申すと自慢できる話はないが、柳沢のほたるまつり、これは大洲市観光事業の一環としても共同でやっている祭りで、私たち

地元でも八重桜を中心に桜まつりを大洲市の観光事業としてやっている。主催は商工会が中心となって地元全体で盛り上げている事業だが、公民館として、まずは年明けに七社ウォーク大会を行う。一年は底辺の神社をお参りする七社参りをする。また一年は山の方を回り、一年交代で高い場所と低い場所を、地域住民はまだ休みなので小学生、中学生、高校生いろんな地域住民の方が参加して頂き、そして七草粥を担当するのは婦人会の担当です。二、三年前からおでんと七草粥と用意をして温かいものを皆さん歩いて帰って来てすぐに食べてもらい喜ばれている。老人会は三世代交流で、小学生との交流をし縄作りや、花植運動をやっており、それぞれ活動はしている。友達グループ同士の活動を盛んに、組織としての活動をしてほしいと言うと用事があるなど、婦人会に關しても中々参加ができず、趣味のグループには参加できるというのが一つの悩みです。柳沢のように地域挙げて祭りやいろいろな行事に参加できるということは意識の問題であり中々できるものではないと思う。そしてすべてが手作りで、バザーやお団子作り、猪を取るのも住民が取りそれを捌いて串にさして油で焼いたりいろいろなことをされ、お神楽にしても藤縄神楽、この辺りでも有名で春神楽は縁起がいいということで、引つ張りだこのなかで呼ばれる方は早めと呼んだ方がいい。そういう風に地域挙げてということが今の世の中希薄になっていると思うが柳沢は継続されていることがとても素晴らしい、また双海町は素晴らしい発案者の若松先生がいらっしゃるので、そういう方を中心にいろいろとこれからもされたいと思っている。

○司会者…東予教育事務所社会教育課

社会教育主事 越智 洋子

地域挙げての取り組みにご苦労されているという発表があった。地域の規模によっても課題は様々であるが、そういった中でのプログラム開発をどう進めているか等もう少しご意見をお聞かせ頂きたい。

○大洲市南久米公民館 館長 三好 康子

先ほど八多喜公民館の方から色々な意見があったが、私達と似

たような取組をされていて、双海の方にお尋ねしたいのだが、私達南久米というところは、合併し大洲小学校に行っているが故郷探訪ということで南久米地区でも故郷を見直そうと小学生と地域の有志の皆様で地域探訪を行った。それが今では冊子になり、その冊子を作るには地域の有志の方にご奉仕をいただき作っている。そういう取り組みをしていたが、残念ながら小学校が廃校になり少し寂しい感じをしている。地域の有志の方は今でも続けており活躍をしている。先ほど司会者の方からも地域の活性化、それぞれの地域のやり方があるが、やはり大変悩んでいるのは、高齢化と少子化とでいろいろなことがやりにくくなっている。地域の希薄化もあり、私達の南久米では三十三年続いているが、大洲特産のいもたきの集いを地域挙げて年に一回、秋の九月ごろに行っている。婦人会の方を中心に二百食三百食を作る。いもたき、おにぎり、サラダ、酢の物、これを早朝より作っていたき南久米地域挙げて、いもたきの集いを行い地域のコミュニケーションに役立っていると思う。地域によりそれぞれのやり方があると思うが、小さいところの地域は小さいところなりに、大きいところは難しいと思いますけども、普段のいろんな組織の取り組みによって前向きに活動ができると思う。また私たちの地域は本当に大洲市でも自慢にしているが、婦人会という大きな組織が母体となりみなさん協力的です。そして春の敬老会があり、私達は春にその年度の敬老会を行う。式典の後に敬老者を喜ばせるために地域挙げて演芸会を行う。南久米地域九地区あり、その九地区が全部婦人会の方を中心に演芸を行う。プロの演技者は呼ばず、地域の方で地域をおもてなしするというところで、婦人会の方を中心にどの地域も演芸をして楽しませてもらおう、ということと本当に和やかな敬老会になっている。これは自慢の一つでそういうところがあったら教えていただきたいと思う。これは私達南久米の自慢する会だと思う。いろいろなことを行うが、先ほど出ていたイルミネーションのこと二十四、五年やっている。公民館を中心に婦人会の方、老人クラブの方、また一般男性の方も高い場所を手伝い、今年も十二月一日にイルミネーション飾りを行い、年末には

それを外し、またお正月のしめ飾り付けを作ってもらう。地域のコミュニケーションが大事である。先ほどの八多喜の方も言ったように、普段から組織を大切にして大きな組織で動くことが一番大事だと思う。趣味のグループも大事であるが、普段のコミュニケーションを図りながら組織で活躍をして継続は力なりと言うのが私の地域では婦人会を母体として頑張っている。今日も女性の方が四、五名来ているが、自治会長、婦人会長、民生の会長様、全員女性です。ということと頑張っているので、今後ともご指導を賜りたいと思います。よろしくお願ひします。

○司会者 東予教育事務所社会教育課

社会教育主事 越智 洋子

発表者の宇高さんが高齢者の「高」を「幸」で表していたが本当にすばらしい表現だなと思います。地域のお年寄りが元気になるたら地域も元気になる。そしたら周りの今まで少し引っ込んでいたお年寄りも、わたしも外に出て見ようかという良い循環が生まれていくのではないかと感じました。

○四国中央市上分公民館 主事 亀山 恭弘

他の公民館と違って特に変わった取り組みはしておらず、僕が上分公民館二年目の主事になり、去年指導して今年改善したいと思った行事が夏に行っている町内の盆踊り大会です。出店等もあり、来場してくださる方はたくさんいますが、踊り手が少なく、これでは寂しいと思います、今年何か改善できないかと思ひ、婦人会の方に相談してみたと、近隣の保育園と小学校に踊りを教えるに何回か保育園と小学校に向いて練習をしたところ、今年はお子さんの踊る人数が増え、それに伴って保護者の方も踊ってくさり、改善できた点があり、宇高さんの仰ったとおり公民館だけでは中々難しいことも会話の中で改善点を見つけていけることもあると思ひました。話は変わってお接待の件ですが、上分では行わず、隣の金田地区に三角寺というお寺がありまして、そこで小学校高学年の方が時期になると参拝者の方にお接待ということでお茶を出しています。

○司会者 東予教育事務所社会教育課

社会教育主事 越智洋子

活動をしていて改善していくことはすばらしいと思ひます。組織の力を公民館がうまく取り入れてることを感じた。

○宇和島市吉田公民館 館長 井上 教

吉田町は五つの公民館があり、吉田地区の住民は四千人ほどおりまして、柳沢公民館とは違った難しさがあると感じています。吉田公民館の特色は二つあります。一つはいのこ大会で、四十五年続いており、十一月の第一土曜日に行われ、まず家々を回ってつき、その後、夕方公民館に集まり、そしていのこのつき合いを行う。これは吉田の歴史文化でもあり、子どもたち同士も繋がりができるので今後も続けていきたいと思ひます。

もう一つは先ほどの敬老会の話で、吉田公民館でも公民館が中心となって敬老会を行い、そのときの引き出物を敬老会に参加する用に準備し、そして案内を出します。しかし、今年の対象者は九百人ほどおられたが、百五十人くらいしか来ていただけで、残りの方には引き出物を渡し、その引き出物はおこわ、ロール巻、お酒、ジュースをセットにして渡します。そのセット袋詰めを婦人会の方にやっていただき、それから出し物などはカラオケや踊りなどの発表がある。寸劇を認知症の方に対してどう対応したらいいかということ、いい例と悪い例とで寸劇をしていただいた。大変好評でよかった。そういうことを中心にやってみよう。それから一つ宣伝ですが、吉田町は三万石で、伊達と言うと宇和島ですが吉田もそうであり、三万石は実を言うと赤穂事件があり、浅野内匠頭が刃傷したが止めたのが吉田の方で、その吉田三万石の中から続いているおねりの山車の巡行がある。一番有名な京都のやまほこ、それから高山があり、それに比べたら小さいが七台の山車で巡行する。十一月三日に吉田の秋祭りでおねりの巡行があるので、是非吉田の方においでいただきたいと思ひます。

○司会者 東予教育事務所社会教育課

社会教育主事 越智 洋子

愛護班や婦人会等の結びつき、又、調整等を公民館でされているんだなということを感じた。また帰りの便の中で意見交換をし

#### 4 指導・助言

ていただけたらと思います。

○内子町 五十崎自治センター 館長 上石 富一

発表に対する感想、私の町での取り組みなどを交えてお話ししたいと思います。さて、双海公民館での地四国八十八ヶ所調査につきましては、同じようなことが私たちのところでも始まっています。五十崎自治センター管内には、新四国八十八ヶ所詣りは、二ヶ所あります。昔は「本四国」をすることは、容易なことではなかったのです。旧御祓村と旧五十崎村、旧天神村にあります。旧御祓村は、明治二年にあつたといわれ、一時は衰退していたようですが、平成になってから四月二十一日に地域をあげて八十八ヶ所詣でおこない、その地域地域でお接待、そして最後に海蔵寺で大きな数珠を参加者でまわして御経を唱えて終わっています。また、旧五十崎村、旧天神村は、明治二十四年からと言われていますが、昭和五十二年に記念巡拝が五十崎地区の老人クラブで行われて以降行われていません。一つの地区では、今でもお接待は、三月二十一日に実施されています。ちょうどその場所は、双海公民館が取り組まれていたのと同じように、今年の十月八日に地元自治会で調査が行われました。今後、調査を行いその結果は、今年度末をめどに報告しますといわれています。ですから、双海公民館と同時期に同じようなことを実施しています。双海公民館の取り組みは、とても参考になるとともに、埋もれた文化に光をあてて、どうやって今後維持又は、発展させるかだと思えます。地域に戻さないと一時的なもので終わってしまうのかなということ。旧御祓地区は、地区がこの八十八ヶ所詣でお接待と合わせて実施しています。高齢化の中で年々難しくなっておりますが、地域で取り組むことによって続けられています。五十崎・天神地区の八十八ヶ所も最終的には地区で取り組み、体制づくりが必要と思っております。その後の活用については、いろいろな方々の助言をいただいで活用したらいいと思っています。まず、地元が八十八ヶ所の存在を確認し、維持をする意識をもってもらうことが大切かなと思います。

柳沢公民館のほたるまつりは、とても有名です。その熱意と保全活動は、素晴らしいと言わなければなりません。柳沢では、ゲンジボタルです。ホタルは、流水系のゲンジボタルの他にも止水系のヘイケボタル、そして陸生ホタルとしてヒメボタル・オバボタル・オオマドボタル、ヘリアカボタルなどがいます。良く撮影されているのが、ゲンジボタルですが、近年は、ヒメボタルの写真が有名になり、写真愛好者がヒメボタルを追いかけいています。ゲンジボタルの発光時間は、四秒なのに対してヒメボタルの発光は短いので長時間露光で撮影すると、ゲンジボタルは線状に写り、ヒメボタルは、点、点と写ります。ゲンジボタルの生息環境は、

一、水がきれいで、水量、水質がかわらない  
二、岸が自然のまま  
三、川底に石があるか、水生生物がはえていて、水が増えた時でも幼虫、カワニナが逃げ込める  
四、カワニナなどの貝が増えやすい  
五、ホタルが飛び回る空間がある  
六、たまごをうるめる苔が水辺にある  
七、成虫が休める草木が水辺にある  
八、電灯などで明るくならない  
九、農薬がまかれていない

これらの条件がゲンジボタルの生息には大切です。こんな環境を守っていく柳沢の方々に脱帽です。私のお願いです。是非ホタルを見せる時には、極力暗い環境でお願いします。また、お神楽については、内子町で毎年各地区で春神楽が奉納されていますが、その神楽は、藤縄神楽、立川神楽、河辺（山鳥坂）シメ神楽の三神楽です。柳沢公民館が積極的に藤縄神楽の日程を公開されていることだと思えます。以前に高千穂へ行つた時に、高千穂神楽を見ました。年間三六五日休まずに毎日一時間公演されているとのこと。料金は七百円でした。何が凄いかというと休まないことです。何班かに分かれて公演されていました。私が行つた時は、百五十人くらいの入場者だったように記憶しています。大洲喜多地域には、三団体のお神楽の伝統が残っているので、例えば柳沢

が発起人になって、小学校の廃校活用で夜神楽の定期公演をすることになったら地域が活性化するのではないかと思います。インスタ映えすることも大切です。大洲喜多郡でこんなことが出来たらいいと私の願望です。

雲海展望公園については、先日この場所から宮元さんが撮影された写真が愛媛新聞に投稿されました。私も先日早朝に、雲海展望公園に行くと、二組の方がいられていました。ちよっとした撮影ポイントとなっています。大洲市では、雲海のポイントとして高山でもよく撮影されています。内子では、藤社で良く撮影されています。大洲市では、雲海だけでなく肱川嵐など霧に係る自然現象があります。また大洲市には、きれいな写真を撮影している方が多いので是非活用されたら良いかなと思います。

## 分科会C「住民参画の推進と公民館活動の評価のあり方」

### 1 発表要旨

○「ボランティアから学ぶ事」

今治市別宮公民館 主事 越智 紀幸

1 別宮地区の概要

2 別宮公民館の概要

3 取組の概要

①「モア・クリーン別宮（地域の方々を中心に古紙回収）」

ア 経緯

イ 実施内容について

ウ 今後の課題

②「別宮子どもサマースクール（校区の小学生を対象に心に残る講座を行う）」

ア 経緯

イ 実施方法・募集方法

ウ 講座を実施してみて

エ 今後に向けて

4 公民館活動の評価の利点

○ 満足度の高い事業開催を目指して、移動動物園の開催

松前町北公民館 主事 森本 純也

1 松前町の概要

2 松前町北公民館の特徴

3 移動動物園の概要（平成二十九年からの実施）

4 移動動物園開催に向けての課題

① 開催場所の問題

② 来場者数の問題

③ スタッフ人員の問題

5 課題解決に向けた取組

① 開催場所の問題

② 来場者数の問題

③ スタッフ人員の問題

6 開催による成果

7 公民館活動の評価のあり方

① アンケート

② 公民館運営審議会

8 今後について

### 2 質疑応答

Q 松前町教育委員会 社会教育課 課長 仲島 昌二

○ 古紙回収について、奨励交付金が役に立ったと言うことですが、その金額とどのような形で役に立っているのか、またサマースクールの中で越智さん自身が一番苦労されたことは何か教えてほしい。

A 今治市別宮公民館 主事 越智 紀幸

○ 奨励交付金の限度額は三十万円ですが、限度額まではいたっていない。また奨励交付金がどのような財源かというと、自治会、婦人会、老人会への助成金として配分されている。サマースクールが一番大変なことは、流しそうめん用の竹を山から切り出していることがとても大変で苦労したことである。

Q 伊方町 社会教育委員 是澤 邦久

○ サマースクールの募集対象児童数はどれくらいで、小学校の全年を対象としているのか。



だが、四日連続で行うのか、飛び飛びで行うのか。種目は一日に一つずつなのか。松前町北公民館の方では、運営委員会が三回ほど行われているが、事業に参加されて町の意見を吸い上げているのか。

○今治市別宮公民館 主事 越智 紀幸

サマースクールの日程は夏休み中に週一回、九時から十二時まで行っている。

○松前町北公民館 主事 森本 純也

松前町の運営審議会ですが松前、岡田、北伊予と三つの校区があり、様々な地域の方が参加している。年度初めに事業の開催予定報告、途中で経過報告、年度終わりには結果報告をしている。

○司会者 八幡浜市喜須来地区公民館館長 毛利 博文

各公民館での実践事例、問題等を発表いただきたい。

○八幡浜市日土地区公民館 主事 木村 一良

当公民館では毎年町民運動会を開催しておりますが、今年度は台風と重なり中止になった。地区の方や役員から「中止になってよかった」との声があがった。準備が大変、高齢化が進み地区対抗競技に参加することが負担になり、人集めが難しいとのことだった。さて来年からどうしようと思っている。主事や役員が折角準備しても、地区の人が楽しんでもらえないと苦勞が報われないなと感じている。何かいいアイデアがありましたら教えていただきたい。

○司会者 八幡浜市喜須来地区公民館館長 毛利 博文

各地区どこも同じように悩んでおられると思う。何かあればご報告いただきたい。何か事業をするときの人集めの方法のいい事例はないか。

○松前町社会教育課 係長 渡辺 司

どこの団体でも人集めは苦勞していると思う。松前町もイベント等、社会教育団体にお願しているが、事業評価というところで、人が沢山集まったら事業自体がよかったと思うのか、参加者が少なくても満足度が高ければいいのではないか。またそのような職員も日々努力していかなければならない。行政が主催して沢

山の人を呼ぶというのもいいが、松前町が行っている「ふれあい学園」では、町民が先生となってみなさんを集めて講座をするというのもある。これも参加者が満足のいくものではないか。

○八幡浜市日土地区公民館 主事 木村 一良

地区全体にアンケートをとってみて、今後の運動会を考えていきたい。運動会を行った後に、地区ごとに各年代が集まって食事をしたりしてコミュニケーションがとれることはとてもいいことだと言う声があるので、それは残しながら考えていきたい。

○司会者 八幡浜市喜須来地区公民館館長 毛利 博文

アンケートは次に進むステップだと思うので、とっていただきたい。

○今治市中央公民館 主事 小池 敏晴

一万二千人くらいの人口がある今治市富田公民館では、運動会よりも三世代でする軽スポーツ大会、ゲートボールやグラウンドゴルフを行っている。各世代が交流しながら行うのだが、お年寄り同士の戦いが始まったりすると、子供たちが論したりしている。そのようなみんなが怒ったり楽しんだりする事業が大切なのではないか。この地区は農家が多いので、小学生と田植えや稲刈りをして、その育てた米で餅つきをしたりする。地域にあった事業をする人と人が集まってくる。きつとその地区その地区にあった事業というものが必ずあるので、それを考えていけばよいのではないか。

○司会者 八幡浜市喜須来地区公民館館長 毛利 博文

公民館は集いの場であるので、子供から大人まで集まれるような公民館活動を展開していただきたいと思う。

○松前町公民館運営審議会 委員 遠藤 貢治

私が勤務している岡田中学校のボランティア部を、移動動物園の時に使っていたきありがたかった。中学校で運動部に入っている子たちはなかなか参加できない。また本校でも各地区の事業に中学生の参加を奨励しているが、休みの日に先生が付き添いとなるのでなかなか参加しにくい現状もある。本校は中等教育学校の五日間のキャリア教育の一環として地域の職場体験を行っている

る。今後、愛媛県の他の学校でも行われていくと思うので、公民館でも受け入れ協力をお願いしたい。

○司会者 八幡浜市喜須来地区公民館館長 毛利 博文

各公民館の主事が多数参加されていると思うが、問題点とかこういうことがわからないとかいうことはないか。また各公民館でこういうことをやっているよとかの実践報告をお願いしたい。

○松前町公民館運営審議会 委員 升田 須賀子

別宮公民館の学校と地域での協働活動の姿であるサマースクールは、子供たちにこういうたくさんの体験活動を積み上げていく大切さを教えることをやっていると感じた。私たちの松前町でも、子ども教室といって、放課後の子供たちの居場所づくりとして年間二十回行って、子供たちの居場所作りをやっているところである。その活動を誰が行いリーダーシップをとっていくのか。人数や場所にいろいろと問題はありますが、今子供たちの体験活動が薄くなってきたりするので、いろいろな体験を通していろいろなふれあいができるようにやっていきたい。人材の掘り起こしや、人材育成が大切だと思いやっているところである。

○司会者 八幡浜市喜須来地区公民館館長 毛利 博文

大変素晴らしい活動をされていると思う。子供たちの意見に触れていかないといけないと思う。三世代が活動できる場がこれからも必要ではないかと思う。

○松前町北公民館 主事 森本 純也

先ほど発言していただいた升田先生と一緒に協力して子ども教室を運営している。でもやはり人員確保が大変となっている。新たな人を見つけないといけないと思う。岡田校区の松前町北公民館の子ども教室を運営する上での課題となっている。

○大洲市沖浦公民館 館長 笹本 智章

いろいろな行事でアンケートをとっているのですが、当公民館では運営審議会です。事業の反省や今度どのようにしていくか話し合っているが、今後地域の方にアンケートをとってみようかと思っている。また大洲市におきましては、現在自治会と公民館とでいろいろと協議しており、当公民館では社会教育に力を入れ

ていきたいと思っている。いろいろな行事に対しては自治会にお願いしている。また主催・共催ということをやりたい。また事業ごとに地域の皆様に俳句を投句してもらい南海放送に送り、沖浦公民館ということで紹介してもらっている。

○大洲市豊茂公民館 館長 宇都宮 芳文

スポーツ大会をやっていたが、高齢化が進み運動会に移行した。最初は勝敗にこだわっていたが現在はゲーム方式にして体育館の中でやっている。隔年の開催とかの話も出ているが、それがきっかけでやめていく可能性もあるので、何らかの形で是非残していきたいと思っている。学級とかの参加者が固定しているので、どういった形で新しい人達に参加してもらうか。どうやって行けばいいのか模索している。住民参加の推進とやることで、みなさんどういふふうにやられているのか。また公民館の評価など、最近やってはいないがどうしていけばいいのか。これから考えていきたい。

○司会者 八幡浜市喜須来地区公民館館長 毛利 博文

これも各地区、特に人口の少ないところでは参加者の固定化、高齢化と続いていて大変だと思いますが、うちはこんなことをやって参加者が増えたとか成功した事例はありませんか。無いようですね。皆さんの活発な意見がありました。

#### 4 指導・助言

○西条市玉津公民館 館長 川上 善秋

皆さんのいろいろな意見を聞かせていただいて、発表者の内容を聞かせていただいて、いろいろな活動を聞くのは楽しいな、おもしろいなということを考えながら聞いていた。

今から言うことは感想みたいなもので、まず一つ目ですが、今日の発表のボランティアから学ぶ事という、今治市別宮公民館のクリーン活動、古紙の活動ですが、西条市の場合では学校とか市全体ではやっているが、公民館でやることはほとんどない。この場合この公民館はみんなの力でやっている。小学生からボランティアを含め、お年寄りまでみんなで関わっている。そこに大きな意味があるのではないか。それが三百七十七回続いているという

ことは本当にすごいことだと思う。事業は抱き上げることはわりと簡単だが、続けることはもっと難しいということをものすごく感じながら、続けていることみんなが関わっていることは非常にすごいことだと思う。サマースクールの方も、子供たち共にみんな頑張っている。公民館というのは、お年寄りと小さい子どもとの活用が多く、小学生とか中学生の活用が本当に少ない。夏休み等とかを利用していろいろな活動を通じて行っているのはありがたい。他にもいろいろやっていると思うが、今からもどんどんやっていたいただきたい。この中で指導者が多岐にわたり、いろいろな層にわかれている。料理があり、わらじ作りがありいろいろな指導者がいることで交流も図れる。今日の目的である住民参画の推進の大事なことであると思う。それといろいろな年齢層をとり入れているところが素晴らしい。

次に移動動物園のことですが、私はやらずに悔やむよりやって後悔せよいつも思っていて、まずはやってみることに、前の事業が難しくなってきたときは切り替えているところが素晴らしい。住民参画の推進といっても、どこも人集めに苦労していることがよくわかった。うちでも参加人数が多すぎて困ったということは一度もない。事業に人を集めるのに三つの方法がある。同じスタイルで行っている行事をリニューアルしながら新しい要素を組み込みながら参加者を増やす。中身をどんどん変えて活躍する場と仕事を変えていく。二つ目は、公民館主催の事業をサークル活動に推進していく指導をする。三つ目は、全く新しいものを作っていく。公民館運営審議会です。昨年一年間の参加人数を見たら、保育園から小学校は多く、中学生から三十代まではとても少ない。また五十代から増え始める。

参加しない年代が活躍できる事業が少ない。この若い人たちが活躍できるチャンスを作っていけばいいのではないかと。今計画しているのは、隣接した市町村や公民館とでお祭りをやってみたい。近隣で情報交換ができる場があればと思う。そういうことを含めて、各地区同士が連携していくことを公民館の力でやっていけるのかというのがキーワードだと思う。根気強く行い、楽しかったよと満足感を得ることができ、だれでもがこれる、ハンディを持っていても利用しやすく活動しやすい、優しい公民館を目指して行っている地域のコミュニティとして活かしているか、アンケートをとるのも大事だし、人とお話しすることも大事である。どこもいろいろな事情やこだわりがあつて難しいとは思いますが、情報を出し合いながら、悩みを共有したりしてお互いがクリアできていけばいいと思う。

## 分科会D 「学校支援活動や学社融合、また青少年の体験活動を推進する公民館活動」

### 1 発表要旨

○愛南町長月公民館 主事 前田 和紀

#### 1 長月地区の概要

#### 2 長月公民館事業紹介

#### 3 青少年の体験活動を推進する「長月夢の森活動」

##### ①「森の意義（役割）」について学ぶ

##### ②「森は友達」目指す森を描き、自分たちで製作、実行する。

#### 4 活動実例

・ツリーデッキ、ツリーハウス、すべり台、ピザ釜の製作等

#### 5 つながりの大切さ

○新居浜市惣開公民館 主事 明日 博美

#### 1 惣開地区の概要

#### 2 公民館の活動（地域と学校の共同ESDプロジェクト）

##### ①事例1 Love & Smile 惣開 ボランティア団体の活動

##### ②事例2 親子どんご大会

##### ③事例3 惣開校区夕涼み会

##### ④事例4 プリンセス&プリンセス夏期講座

##### ⑤その他事業

観月会、避難所生活体験シミュレーション、合同総合防災

訓練、防災ネットワークづくり

#### 3 おわりに

## 2 質疑応答

Q 大洲市今坊公民館 館長 久保 貴美男

ESDは何の略か。

A 助言者 四国中央市三島公民館 館長 徳永 幸夫

Education for Sustainable Development

(エデュケーション フォー サステイナブル デイベロップメント)

ユネスコの理念、地球環境を保全しつつ持続可能な社会を実現するための教育。

Q 新居浜市新居浜公民館 館長 高田 実

愛南町長月公民館について、子どもたちが主体となった活動、子どもが独自に頑張っているとのことで大変素晴らしいが、安全面が心配。危険な道具も使っているようだが、大きな怪我はなかったのか。保険はどうなっているのか。

A 愛南町平城公民館 館長 吉村 隆典

(発表補助者、長月夢の森活動実施者)

現実的な危険はあるが、これまで怪我らしい怪我はない。まず道具の使い方を大人が手本として見せる。その後上手な子が手本になり、指導者などが注意して見ている。保険は公民館の保険、小学校の保険で対応している。

Q 助言者 四国中央市三島公民館 館長 徳永 幸夫

惣開地区の発表の中にステークホルダーというのがある。意味は？

A 発表者 新居浜市惣開公民館 主事 明日 博美

さまざまな団体という事で使っている。

A 助言者 四国中央市三島公民館 館長 徳永 幸夫

経済用語で日本語に置き換えるなら利害関係者。

他に、PDCAは plan-do-check-action (プラン：計画、ドゥー：実行、チェック：評価、アクション：改善)

Q 東温市則之内東分館長 高須賀 康夫

中山間に住んでおり、地域の環境保全で耕作放棄田が問題になっている。対応に困っているが、発表の最後の写真に、耕作放棄田のような写真があった。もしその活用事例があれば教えてほ

しい。

A 愛南町平城公民館 館長 吉村 隆典

(発表補助者、長月夢の森活動実施者)

写真は耕作放棄田ではないが、最近では人間が森に入らなくなつて、森の大切さを大人が子どもに伝えることができない。子どもたちが森に入ることによって、大切さがわかり、自分たちが守るし、守られる。そうすることによって、人間の匂いががらやつていに入らなくなる。そういうことを子どもと話しながらやつてい。現実的にはタケノコ掘りくらいしか使わなかつた森がきれいになった。森に子どもが入ると、森から子どもたちは出てこなくなる。どこに魅力があるのかはわからないが、休憩時間でも降りてこない。そういう活動で森の大切さを知ってもらうために、また、地元の自然を知り、いつか自分の地域に帰ってくるのではないかと思つて続けている。田んぼの耕作放棄地にはコスモスをまいてコスモスマつり等をして使用している。

Q 司会者 東温市中央公民館 副館長 高原 さゆり

子どもが少なく、呼びかけが難しくなつてきているという問題があるが、皆さんの公民館で呼びかけの事例はないか。

A 会場責任者 大洲市今坊公民館 館長 久保 貴美男

獅子舞をしている。地方祭で各地区を回るが、その練習に小学生から高校生までおり、高校生に指導係がいる。その時に高校卒業して仕事をし始めているお兄さん等も回ってくれる。小中高、お兄さん、地元の大人が回つて、なかなか面白い、子どもたちもいろいろ学べると感じている。

## 3 テーマに対する研究討議

Q 四国中央市天満公民館 館長 秦 英治郎

長月公民館さん、地域の活動を活性化するという事で素晴らしいことをされていると感心した。しかし、始めるにあたって資金が必要かと思うが、どのようにして調達をしているのか。協力者、支援者への声掛け等、準備をどのようにすすめていったか。

A 愛南町平城公民館 館長 吉村 隆典

(発表補助者、長月夢の森活動実施者)

はじめは、「森は友達推進事業」の指定校だったので一年間三十〜五十万円の補助があり、その中から夢の森事業に十万、それ以降は愛媛県の森林環境保全補助金で毎年実施。その他、道具は当初二年間で終了予定だったので、自費で出した。(吉村館長私費)最初の二年間は館長一人、学校から必ず先生一人がついていた。途中から公民館長、前区長、前公民館長と人が増えた。夢の森六年目となり、今となつては地域の多くの方に協力いただいている。

Q 宇和島市番城公民館 公民館主事 宮本 圭

惣開公民館の事業の予算は。写真でも沢山の参加者がいる。講座の後に食事があるが、企画や細かい打ち合わせ、準備はどうしているのか。

A 発表者 新居浜市惣開公民館 主事 明日 博美

予算は公民館に教育力プロジェクト、コミュニティ再生事業がある。イベント、講座は市のコミュニティ課から頂いている。運営は自分で企画書を作り、出前講座、シエアママ等いろいろな機会の意見を参考にしながら進めている。子どもが興味を示さないといけない。団地の子が多いので夏休み家で遊べない子が多い、公民館がその子たちの居場所になればいいと思っている。準備も公民館だけでなく、シエアママという団体を中心に、皆でやっている。

Q 西条市教育委員会社会教育課 副主査 津島 和江

長月公民館にはピザ窯があったが、今年度のピザ窯づくりの期間、どんな人が協力されたのか。

A 愛南町平城公民館 館長 吉村 隆典

(発表補助者、長月夢の森活動実施者)

あるものはすべて子どもが(あつたらよ!)と描いたものを作っている。四月に絵を描いて、六月から作り始めて、完成は十月八日。ブロック積を地元の左官さん、炊き出し、ドーム部分は平城小の先生に協力いただいた。

Q 西条市教育委員会社会教育課 副主査 津島 和江

惣開公民館で、三十万、五十万の予算という話だったが、事業

後の食事の予算はどのようにしているか。

A 発表者 新居浜市惣開公民館 主事 明日 博美

コミュニティの予算は食べ物にも使える。すべて無料参加。○グループ討議後各班からの意見

- 子どもが減っているといわれているが、西条市の中では学校も子どももいないところで土曜教育の事業に取り組み始めた。高校生は地域活性化をテーマにしている。高齢者対応の事業に目が向きがちだが、高校生と一緒に活性化に向けた事業につなげている。
- 事業への呼びかけについて小学生対象の事業が多く、学校への呼びかけ、生徒会担当への呼びかけ、中学生ボランティアに呼びかけをさせるなどの事例があった。学校行事として地域を巻き込んで活動しているところもあった。魅力的な事業を作るために、子供の意見を取り入れたり、ボーイスカウトなどにも呼びかけたりして参加を募っている。

- 公民館事業では安全面が重要、保険は気を付けて加入している。スポーツ保険にも入っている。中学生高校生の参加あまりない、小学生はよく参加している。協力者は婦人会、老人クラブなどがある。小学校が廃校になってきているが、どう活用するか悩んでいる。
- たくさん行事があるが、皆一生懸命こなしている。宇和島市石応公民館では小学校が統合四年目で子どもが地域に少ない。運動会は続けており、準備できる人が少ないが、元気な集落づくり応援団にお願いし、宇和島市の企業の方十名くらいに手伝ってもらっている。地元の企業も活用してはいかがでしょうか。

- 婦人会や子供会が減少して公民館活動への参加が難しくなっている。中高生でどうしてもつながりが途切れがち。お祭りがあれば、盛り上がると思う。

- 公民館の立地場所によって活動方法や悩みが様々。学校と隣接してないので距離感がある。婦人会と老人会しかない。

- キーワード…集う、見守る、遊ぶ、ボランティア活動、地域を知る、食べる、活動場所

- 公民館活動に深く関わっている方が少ない。イベント大好きな新

## 5 指導・助言

谷公民館で、とにかく何かやろうというのは多くやっている。子どもたち対象で十一月に入って登山イベントを予定している。部活にスポ小にと子どもたちが忙しくイベントに集まってこない。毎年百〜百五十人で登山をしている。

○四国中央市三島公民館 館長 徳永幸夫

私自身が公民館二年目。まだまだ勉強中。私の感じた感想を述べさせていただく。

二つの公民館の発表があったが、共通の気持ちとして感じたことを申し上げたい。今公民館は貸館事業が沢山ある。今までやってきた独自の活動もマンネリ化してきている。これを打破しないと、という気持ちを持たれている公民館も多いのではないかと。二つの公民館は企画力、創造力を活かして新しい仕組みを考えている。

長月公民館はやり始めたものを着実に積み上げて、機運を壊さないように興味を持続させるように続けている。新居浜のほうは次々と新しい仕掛けを繰り返して、興味を持続させていっている。やはり企画力をもって個性のあることを続けていくのが大切。D分科会に二公民館を選んでいただいた組み合わせの妙。一方は山村過疎型の町、田舎の公民館の形態での取り組み、学社融合。もう一方は都市型、人口集中して事業所や企業が集中している都市中心部の公民館。この二つを組み合わせると一つの分科会になったのは、ありがたい組み合わせ。中学校でゲマインシャフト、ゲゼルシャフトという言葉を知ったが、ゲマインシャフト（地縁血縁重視）をベースに活動を繰り返している地域、ゲゼルシャフト（都市型）型で転勤族が多い地域、それぞれでの公民館の在り方。これが非常に対照的で、この組み合わせに感心し、ありがたいと感じた。

長月公民館はリアス式海岸、宇和島から南予にかけての場所だが、海からは三、四キロ離れている山間部の公民館。その中で「森」に目を付けられてテーマにしたことに感銘を受けた。森は単独で生きているのではなくて、リアス式の海岸、養殖、釣り場で産業

が成り立っている地域にとって、森を守ることは海を守ることにつながっている。森がもっている意義、森を友達にしないといけないという意義を子どもたちに理解させようと事業を行っていることがすばらしい。

子どもの声が聞こえなくなったという問題は共通。私の公民館も以前は千八百人の学校が今は三百人。子どもは飽きっぽくて、危険や冒険が好き。そういう中でどう興味を持続させていくのか、遊ばせながら地域に貢献させていくのかという点で、長月公民館は素晴らしい活動を考え付いたと感心した。少なくともったということは顔も名前も憶えやすい。逆手にとって、質の高い子に育てよう。その子たちがこの体験をもってUターンして「地域を再生するんだ」という思いで帰ってきてくれたら、地域再生も夢ではないと感じた。

新居浜市惣開公民館は斬新で先進的な取り組みをされている。単発でやって、次の年には参加しなくなったという飽きっぽい住民が多くなってきているが、次々と興味を持って取り組みで、子どもも親も引っ張り込んで地域全体のまとまりを高めていこうとサステイナブルな取り組みをしている。都市型の地域の中ではあまり興味を持っていない、冷めた住民が多い。私の地区も地域に愛着をもっていない、転勤する人がいる。その中で地域への愛着をどう育むのか、公民館の活動をどう続けるのか、どう意味や連携を持たせるのか。惣開公民館は、今まさにその試行錯誤をしている最中なのではないかと感じた。小学校の子どもを巻き込んで防災教育をした。やはりそれは意味のある行動だったと思っっている。何でもいいが、やってみてだめだったらまた考えるのでもいい。企画力をもって頑張ったらい。

本日は研究大会でサステイナブルとかESDプロジェクトとか、そういう言葉も説明すればよく分かるが、新居浜で学力の高いかたが住んでいるのは分かるが、なるべく分かりやすい言葉を使って、住民へは呼びかけてもらいたいと思う。そういう取り組みの仕方も一方であるのかと思った。

## 分科会E「家庭教育を支援する公民館活動」

### 1 発表要旨

○松山市味酒公民館 館長 土居 貴美

#### 1 地域の概要

- 1 家庭教育を支援する公民館活動
- 2 子ども朗読教室の取組について

○西予市狩江公民館 主事 平田 茂雄

- 1 地域の概要
- 2 ちりめん村通学合宿の内容
- 3 家庭教育支援のこれから

### 2 質疑応答

Q 松山市味酒公民館女性教育部長 北尾 栄子

六月に行われている合宿の時間帯や学校の帰りの方法を詳しく教えてほしい。

A 西予市狩江公民館主事 平田 茂雄

一日目は学校を終えた後開村式を行い、寝泊まりする。二日目、三日目は平日なので、公民館から学校へスクールバスで行き帰ります。

Q 西予市中央公民館 主事 中山 佑司

子ども朗読教室の今後の展望について

A 松山市味酒公民館 館長 土居 貴美

学習した子どもたちがどういう場で活躍できるか。学習したことを学校に持って帰るだけでなく地域におろし、町教育委員会や町内連合会或いは地域の人たちから要望があれば、学習したことを地域に広げ活動していくのが夢である。

Q 松野町中央公民館 主事 岡本 渉

読み聞かせ会で住民の方に絵本の読み聞かせ講習や紙芝居の技術を習得させることで、どのような効果があったのか。

A 松山市味酒公民館 館長 土居 貴美

公募された住民や児童クラブ支援員の方が学習している。児童クラブ支援員は学習したことを子供たちの支援にそのまま役立つ事ができる。また、今年は紙芝居の技術習得を行ったことで、

子どもたちに楽しんでもらえ、支援員の方が大変喜んでいた。

発表で真似び(まねび)が学び(まなび)に代わって主体的な学習態度に変わっていくと言ったが、家庭が一番の二葉、芽を出させるところなので、我が家のルールという資料をお渡しした。家庭の中に真似び(まねび)があるように、読み聞かせ講習で大人(親)が成長する姿を活動で支援していきたい。

### 3 発言・活動報告

○愛媛県公民館連合会専門委員会 委員長 寺澤 房和

今回の発表は社会教育と家庭教育の融合そのものではないかという印象を受けた。味酒公民館は、子ども朗読教室で子供たちが地域の先輩から指導を受け、見習って成長していく。狩江公民館は、親の姿や地域の各種団体の行動を見て、子供たちは地域を学んでいく。どちらも地域の連携や先輩たちの連携を通じて、親・地域の方の姿を見て成長する活動が深められており素晴らしい発表であった。また、発表された平田茂雄さんは、以前されていた仕事が生かされ、公民館活動の自信に繋がっている。公民館職員の方は、自信を持って行わないと地域の方はついてこないで、地域の方へその姿を見せないといけない。

○西条市西条公民館 館長 喜多 和誠

うちでは放課後子ども教室を行い、十三の教室に取り組んでいる。昔遊びや防災教室やお茶のマナーなど様々なことをしている。また、地域に住まれる子どもがおられる外国人の方へ勉強の指導を学校の先生などに協力頂いて行っている。

### 4 グループ討議

1 班 地域の人数が多いので、まとまりが悪い。逆に人数が少ないので、活動方法に困る。

2 班 公民館活動に協力頂いている各種団体の後継者がいないので困っている。

3 班 活動には、資金と気合が大事

4 班 通学合宿で協力頂いている各種団体の高齢化による次世代の担い手が課題。通学合宿に参加した子どもたちの親へ手が離れたらお手伝いしてもらおうようにしていきたい。

五班 地域の子どもが少ない、関心を持ってもらえないので活動内容・方法に困っている。

六班 公民館活動は周りの協力がないと出来ない。子供たちをどう公民館活動へ巻き込み、親を巻き込んでいくか。

七班 自治会に入ってもらえる家庭が減ってきている。学校や地域のつながりが減ってきている。家庭教育は子どもを対象と思いがちだが、公民館を通じて親に学んでもらい、地域のつながりを形成していく必要がある。

## 5 指導・助言

○伊予市双海地区公民館 館長 森田 清延

味酒公民館は、家庭というものをしっかりと捉え、基本がしっかりされている。子どもだけでなく、大人の育成の事業を展開し、また子どもの自主性を育てる活動をされながら着実に結果にも繋げており、素晴らしい取り組みであると思う。子供たちが活き活きと社会を生き抜いていく姿が家庭を明るくすることに繋がります、一つの家庭教育支援方策になっているのではないかと思います。狩江公民館は、子供たちが通学合宿で自ら家事などを行うことで、親のありがたみが分かるものであり、子どもにとって貴重な体験になる。エネルギーは使うが、子供たちにとって決して無駄にならない活動である。

家庭教育は、親が子どもへ教育するものであるが、家庭という小さな社会に閉じこもってはいけない。親も子ども地域で他者との繋がりがや関わりを持つことが社会を広げ、学ぶことで家庭教育の内容をさらに豊かにし、目標である子どもの社会的自立であったり、親が子育てを通じて、自らの人生を豊かにすることに繋がっていくのではないかと思う。また、様々な支援者同士が繋がって広がることで、親子の育ちを豊かに支えていく。こういうのが家庭教育の目的だと思う。

- 一 親の育ちを応援する。学びの機会を充実させる。
- 二 親子と地域が関わる取り組みを推進する。
- 三 支援のネットワークをつくる体制。

四 大人から子どもまでの生活習慣づくり  
家庭教育支援は、親が元気になるための支援であり、子どもが元気になるための支援でもあると思う。さらに親子が元気になるための支援の輪が広がって地域も元気になるもの。要するに公民館の目的が達成できるのではないかと思う。取っ付きにくい分野では有るが、それぞれの公民館で何らかの家庭教育支援をされていると思うので、自信を持って活動してほしい。



# 県公連だより

平成二十九年 度

## 愛媛県公民館連合総会

五月十八日(木)午後、県生涯学習センターにおいて、平成二十九年 度総会を開催しました。

越智会長の開会あいさつに続いて、愛媛県教育委員会教育長井上正様より来賓祝辞をいただいた後、議事に入りました。「平成二十八年 度事業報告並びに一般会計歳入歳出決算」「平成二十九年 度基本方針並びに事業計画(案)」「平成二十九年 度一般会計歳入歳出予算(案)」「平成二十九年 度郡市公連会費分担金(案)」等についての審議が行われ原案どおり可決されました。

また、任期満了に伴う役員改選が行われ、理事四名、監事二名が新たに選任され、平成三十一年 五月までの二年任期の新しい体制がスタートしました。

平成二十九年 度

## 公民館新任職員

### ネットワークセミナー

六月八日(木)・九日(金)の二日間、愛媛県身体障害者福祉センター及び道後友輪荘

において、公民館新任職員四十五名が参加して、「活力あふれる公民館をめざして」のテーマのもとにネットワークセミナーを開催しました。県教育委員会生涯学習課の協力をはじめ、社会教育に造詣の深い講師の方々の講話やレクリエーション実技の指導、先輩主事とのグループ討議等、二日間に亘り充実した有意義なセミナーとなりました。

平成二十九年 度

## 新任館長研修会

六月十五日(木)、県生涯学習センターにおいて、新任公民館長等六十名の参加を得て、公民館制度や公民館における人権・同和教育、地域づくりと公民館活動をテーマとする研修会を開催しました。今後の職務遂行に役立つ基礎知識や公民館運営の基本を身につけることのできる有意義な研修会となりました。

平成二十九年 度

## 県公連主事部会・公民館職員等 合同一泊研修会

七月六日(木)・七日(金)の二日間、松山市のホテルメルパルク松山、子規記念博物館、道後温泉本館等で「地域づくりと公民館活動」を主題に研修会を開催いたしました。研修会では、「松山市の公民館事業の取り組みについて」、「青少年教育部の取り組みとふりかえり」、「子どもをまんに公民館と学校でまちづくり〜かわりをチカラにつな

りをつなぐ〜」、「松山市の防災への取り組み」の講話のほか松山市立子規記念博物館においてのビデオ鑑賞とインスタクターの説明による館内見学、道後温泉本館等の施設見学などを交えた有意義な研修会になりました。研修実施に当たり、松山市教育委員会と地元関係者から積極的な協力をいただきました。

平成二十九年 度

## 公民館報コンクール審査会

八月十七日(木)、県生涯学習センターにおいて、一部二十三点、二部二十点の応募から慎重に審査が行われ、一部八点、二部七点の入選作品が選出され、十月二十五日に大洲市で開催された平成二十九年 度の県公民館研究大会で表彰されました。

平成二十九年 度

## 愛媛県公民館研究大会

(大洲市民会館他)

十月二十五日(水)、大洲市大洲の大洲市民会館大ホールをメイン会場に、五百七十七名の参加を得て、「新しい公民館像を求めて(公民館の不易と流行)」を主題に研究大会が開催されました。大洲市教育委員会はじめ関係各位のご協力に感謝申し上げます。詳細については、本書の大会記録をご覧ください。

平成二十九年 度

### 県公連専門委員会

平成三十年一月十一日(木)、県生涯学習センターにおいて、専門委員会委員と会長、副会長、顧問、県教委担当者の出席で専門委員会を開催し、事務局からの二十九年 度事業報告、三十年 度事業計画案についての説明の後、自由討議を行っていただき、ステップアップセミナーの参加者数、愛媛県公民館研究会大会に関する事、公民館事業に関する予算確保、公民館運営審議会委員会の活用等について意見交換をしていただきました。

平成二十九年 度

### 第三回理事會

一月十八日(木)、県生涯学習センターにおいて開催し、二十九年 度の事業実施状況、一般会計歳入歳出決算見込み、三十年 度事業計画案等について協議がなされました。

また、平成三十二年 度に本県で全国大会を開催する予定であることを踏まえて、三十年 度の県公民館研究大会のテーマ等についても協議がなされました。

平成二十九年 度

### 全国公民館研究集高知県大会 中国・四国地区公民館研究集高知県大会

平成二十九年十月十九日(木)・二十日(金)

の二日間、高知市「高知県民文化ホール」をメイン会場に、全公連、中国・四国地区公民館連絡協議会、高知県公民館連絡協議会等の主催で第三十九回全国公民館研究集兼第四十回中国・四国地区公民館研究集が開催され、全国から千二百五名、本県からは百三十九名が参加しました。

研究集会では、「新たな絆を育む心ときめく公民館」をスローガンに、第一日目は、開会行事に引き続き、「賢く健やかに〜今、私にできること」のテーマで基調講演が行われ、その後、「公民館への期待と可能性」というテーマでパネルディスカッションが実施されました。

二日目は、「住民参加」「子どもの体験」「家庭教育支援」などのテーマで八つの分科会が開催され活発な研究・討議が行われるなど、有意義な研究集会となりました。

平成三十年 度は、第四十回全国公民館研究集会が十一月一日(木)・二日(金)の二日間、東京都で開催される予定です。

なお、中国・四国地区公民館研究集会は、平成三十年 度は開催されず、次は平成三十一年 度に徳島県で開催される予定です。



### 愛媛県公友会について

愛媛県公友会(若松進一会長・会員数三十三名)は、県公連、郡市・地区公連の役員であった方、県教育委員会等で公民館担当者であった方、学識経験者や会の趣旨に賛同する方などが会員となり、本県の社会教育の進展や地域づくりに寄与することを願って、昭和六十二年に発足しました。

会では、「あつまる・まなぶ・つなぐ」を基本理念としており、公民館関係の職場を去られてからも、今なお公民館を愛する気持ちを持たれている方々を募集しています。

これからも、若松会長を中心に会員一同、本県の公民館活動の活性化と社会教育の推進に微力を尽くすことにより、ひいては「故郷へのご恩返し」に繋がることを願っています。

### 新規ご加入の問い合わせ

・申し込み先

〒七九一〇一―一三六

松山市上野町甲六五〇

県生涯学習センター

県公民館連合会事務局内

愛媛県公友会事務局

TEL 〇八九―九六三―三五八三

(ファクシミリ 同番号)

## 編集後記

力をいただきました皆様方には心から感謝申し上げます。

◎「伊予路」第百五十四号をお届けします。  
平成二十九年度の県公民館研究大会は、大洲市民会館をメイン会場に開催いたしました。前日と当日のお手伝いをしていただきました大洲市公連の皆様方には、深く感謝を申し上げます。

三十年度は、上浮穴郡での開催が予定されております。多数の皆様方がご参加くださいますようよろしくお願いいたします。

◎県公連主事部会が中心となり、本年度も一泊研修を実施しました。

七月六日（木）七日（金）の二日間、松山市のホテルメルパルク松山・子規記念博物館・道後温泉本館等を会場に四十名が参加して、講話、施設見学、情報交換などの研修を行いました。

今回の研修実施にご尽力をいただきました松山市公連並びに講師の皆様には、心から感謝を申し上げます。

◎今年度も残りわずかとなりましたが、県公連の行事も何とか無事終えることができそうです。これも、ひとえに県教委・市町教委・郡市公連並びに関係各位のご支援・ご協力の賜と、ここに厚く感謝を申し上げます。

◎今回も、各地の公民館での活発な活動の内容が様子が投稿されました。本誌発行にご協

愛媛県公民館連合会機関誌

伊 予 路 第一五四号

発 行 愛媛県公民館連合会

松山市上野町甲六五〇

愛媛県生涯学習センター内

発行年月日 平成三十年三月十日

印 刷 三創印刷株式会社

☎〇八九一九三三―〇二六八



平成29年度 (平成29年5月1日～平成30年5月1日)

# 公民館総合補償制度

本制度は、公益社団法人全国公民館連合会(全公連)の制度です。市町村の公民館および自治公民館、また社会教育法に定める「公民館の目的」に寄与する施設等で公民館に準ずるものとして全公連が加入を認めたものは、名称を問わずご加入いただけます。指定管理者制度を導入された施設もご加入いただけます。

## 3つの補償で公民館活動をサポート

### 1. 行事傷害補償

【災害補償保険(公民館災害補償特約、熱中症危険補償特約)+見舞金制度】

#### 保険

- 公民館行事参加者のケガを補償
- 公民館利用者のケガを補償
- 行事往復途上のケガを補償
- 行事の事前練習や事前準備、後片付けでのケガを補償
- 食中毒や熱中症を補償

#### 見舞金制度

- 急性疾病に、死亡弔慰金、入院見舞金をお支払いします。
- 特定災害により公民館建物やその収容財産に損害が発生した場合に、見舞金をお支払いします。

#### 【補償例】



- バレーボール大会参加者が転倒して負傷。

### 2. 賠償責任補償

【賠償責任保険(施設所有管理者特約、昇降機特約)】

#### 保険

- 公民館の施設・設備等\*の欠陥や業務運営のミスにより、第三者にケガをさせたり、財物を損壊したことにより、公民館が法律上の賠償責任を負担しなければならない場合に補償

\*公民館が所有、使用または管理する財物への賠償事故などは対象になりません。

\*施設にある昇降機(エレベーター、エスカレーター)の所有、使用、管理に起因する賠償責任も含まれます。

#### 【補償例】



- テントの張り方が悪く風で飛ばされ、行事来場者の車を破損。

### 3. 職員災害補償

【普通傷害保険(就業中のみの危険補償特約)+見舞金制度】

#### 保険

- 公民館事業や業務に携わる方の公民館業務中のケガを補償

#### 見舞金制度

- 公民館事業や業務に携わる方の病気や業務外のケガ、業務中の地震によるケガに死亡弔慰金や入院見舞金をお支払いします。

#### 【補償例】



- 職員が業務中に脚立から転落して負傷。

## 公民館総合補償制度の特徴

### (1) 補償範囲や対象者が広い、公民館専用の制度です。

- 全公連が運営する「見舞金制度」に「保険」を組み合わせた公民館や類似公民館の専用の制度で、安心して公民館活動を行っていただけるよう幅広い補償になっています。

#### ★行事傷害補償制度のここがおすすめ★

- 日本国内であれば行事の場所は問いません。 ※別に定める危険な運動中等は対象外です。
- 行事参加者や利用者の居住地は問いません。
- 公民館公認のサークル活動参加者や有償・無償を問わず公民館ボランティアや講師も補償します。
- 公民館が他の団体等の行事に派遣する行事の参加者も補償します。
- 宿泊をとまう行事も対象です。

### (2) 年1回の手続きで安心です。

- 年1回の手続きで年間の主催、共催行事が対象になり、個別の行事の通知は不要です。うっかりして保険の手配を忘れる心配がありません。

### (3) 保険料の割引制度もあります。

- 同一市町村内で10館以上まとめて加入されると、行事傷害補償掛金に割引が適用できます。
- 職員災害補償には、団体割引25%、過去の損害率による割引25%を適用しています。

このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては「平成29年度版マニュアル 公民館総合補償制度の手引き」をご覧ください。また、本制度全般のお問い合わせ、資料請求等は、エコー総合補償サービスまたは損保ジャパン日本興亜までお寄せください。

■引受保険会社  
**損害保険ジャパン日本興亜株式会社**  
 営業開発部第三課  
 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1  
 TEL 03-3349-3820 FAX 03-6388-0157

■取扱代理店(お問い合わせ・資料請求先)  
**エコー総合補償サービス株式会社**  
 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-9  
**TEL : 0120-636-717**(通話料無料)  
**FAX : 0120-226-916**(通話料無料)

